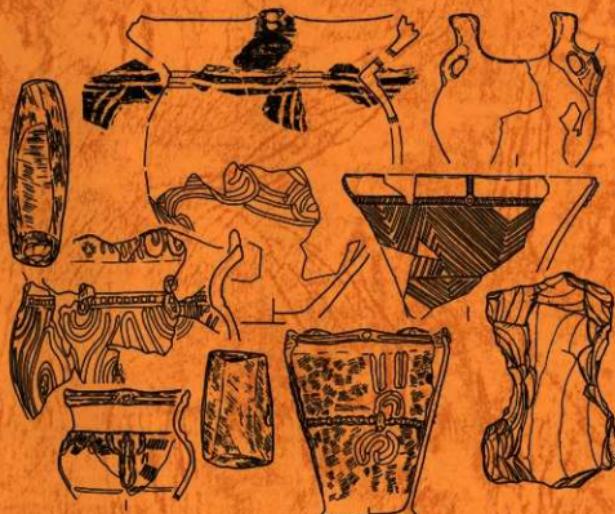


山梨県韋崎市

宿 尻 遺 跡

—ディサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2002

韋崎市教育委員会
韋崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

宿 尻 遺 跡

—ディサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2002

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序 文

宿尻遺跡の所在する韮崎市穴山町は、国史跡新府城跡の外郭ともいわれる能見城跡があり、「武田の里 にらさき」を掲げる当市において歴史的に意味深い地域の一つであります。中世戦国期において重要であると共に、過去県道の拡幅時の発掘調査により縄文時代から古墳時代にかけても先人たちが様々な生活の知恵を絞りながら歴史を積み上げてきたことがわかっておられます。

今回、デイサービスセンターを建設するにあたり、埋蔵文化財包蔵地であり、建築方法からその破壊を免れることができないことから、韮崎市遺跡調査会で埋蔵文化財発掘調査を実施しました。発掘調査では縄文時代の土木工事の技術を示す遺構などが確認され、土偶や石棒をはじめ縄文時代の精神文化の表象となる遺物も多数出土しました。

本報告書が学術的に考古学や歴史学の研究の一助となるとともに、地域文化の発展の一起爆剤となることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査実施にあたり地域の皆様をはじめとして、関係各機関・諸氏に厚くお礼を申し上げます。

平成14年3月29日

韮崎市遺跡調査会
会長 小野 修一

例　　言

1. 本書は山梨県韮崎市穴山町字宿尻地内所在の宿尻遺跡の発掘調査報告書である。韮崎市から委託を受け、韮崎市遺跡調査会が発掘調査を平成12年度に、報告書刊行業務を平成13年度に実施した。
2. 本書の原稿執筆は、第3章第5節・第4章第2節を角張淳一、第4章第3節を森川リリ・サーコ、その他を閑間俊明がおこない、編集は閑間がおこなった。
3. 本書で用いた地図は建設省国土地理院発行の地形図(1:200000)、地勢図(1:25000)、韮崎市発行の都市計画図(1:2500)である。
4. 陶磁器類に関しては佐々木満氏(甲府市教育委員会)、降矢哲男氏(九州大学学院)にご教示いただいた。
5. 本書に掲げる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会に保管されている。
6. 発掘調査から本報告書刊行までの間、多くの方々や、諸機関から多大なご教示、ご配慮を賜った。ご芳名は省略するが感謝申し上げたい。
7. 調査組織は以下のとおりである。

平成12年度

調査主体：韮崎市遺跡調査会

現地調査担当：閑間俊明

凡　　則

1. 遺跡全体図のX・Y・H座標は平面直角第8系(原点：北緯36度00分00秒、東経138度30分00秒)に基づく。各構造平面図等の方位はすべて座標方位である。
2. 遺構・遺物の掲載縮尺は原則として次の通りである。
(遺構) 堅穴住居跡1/40・出土状況図1/80
　　炉・柱穴・土坑 1/20・溝・全体図任意

目　　次

序	
例　　言	
凡　　則	
目　　次	
第1章　調査経過.....	1
第2章　宿尻遺跡とその周辺の環境.....	1
第1節　地理的環境	
第2節　歴史的環境	
第3章　遺構と遺物.....	1
第1節　遺構	

調査参加者：阿部知恵・阿部由美子・石原ひろみ・岩下雅美・内山こずえ・上野慎司・上野理江・大柴欣子・小沢雄介・小野初美・加藤歩美・河西裕香・木内純子・五味ゆき子・嶋津かおり・清水由美子・鈴木祐太郎・西川信吾・比奈田かつみ・深澤真知子・細川二三子・宮沢俊彦

事務局(韮崎市教育委員会社会教育課)

教育長：奥石薰、課長：眞壁静夫、課長補佐：下村真俊、係長：大木純、山下孝司、閑間俊明、斎藤進

平成13年度

調査主体：韮崎市遺跡調査会

整理担当：閑間俊明・秋山圭子

整理参加者：阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・小沢千尋・小沢雄介・小野初美・木内純子・嶋津かおり・橋本大介

事務局(韮崎市教育委員会生涯学習推進室学術文化財係)

教育長：奥石薰、課長：眞壁静夫、室長：長野栄太、リーダー：山下孝司、閑間俊明、秋山圭子

8. 本書を作成するにあたり様々な文献を参考にしたが、紙面の都合上割愛したことをご了承願いたい。

例　　言

- (遺物) 土器・陶磁器(実測・拓本)1/3・1/4
　　土製品1/3・石器1/2
3. 土器・土製品観察表の接合線は分布・接合図の番号と一致するが、すべての接合を図化していない。また接合線は任意であり破片同士の接合を示すものではない。胎土の粒子は多い順に記した。

目　　次

第2節　土器・土製品の分布・接合関係	
第3節　土器・土製品等	
第4節　石器の分布・接合関係	
第5節　石　器	
第6節　自然科学分析	
第4章　まとめ.....	8
第1節　堅穴住居跡複数からみた住まい	
第2節　宿尻遺跡の石器群	
第3節　宿尻遺跡の自然科学分析	
写真図版	

第1章 調査経過

平成12年5月15日に韭崎市教育委員会へサービスセンター建設予定地内の埋蔵文化財有無確認調査の依頼があり、同年6月8日及び20日に有無確認調査を実施した結果、予定地内が遺跡であることを確認した。協議の結果、遺跡の破壊が免れないため、平成12年度に発掘調査を実施、平成13年度に出土品等整理業務を行うこととした。

発掘調査は平成12年7月11日から開始し、終了したのは9月3日である。試掘時の予想をはるかに上回り、縄文時代の竪穴住居跡2軒・土坑1基・斜面地廐棄場、古墳時代の土坑1基、近世以降の溝跡11条等の遺構を

確認し、約35箱の遺物が出土した。また、当遺跡の南側には新府城跡の外郭とも指摘される能見城跡があり、それと関連する可能性がある急斜面の落ち込みを確認している。

発掘調査終了後に遺物の洗浄・注記を実施し、平成13年度に本格的に整理作業を開始した。出土遺物の属性をそれぞれ記録し、接合作業を延べ30人日おこない、縄文時代の斜面地への戦略を捉えることを最重要課題とした。遺構図は発掘現場でのデジタルデータを加工することで時間短縮をはかるとともに、デジタル報告を視野に入れ図面の管理をおこなった。

第2章 宿尻遺跡とその周辺の環境

第1節 地理的環境

当遺跡の所在する韭崎市穴山町字宿尻は、当市を貫流する釜無川と塩川に挟まれた七里岩台地と呼ばれる八ヶ岳泥流の上、標高530m前後に所在する。

能見城防壁の一つを成す標高590mの能見城山と標高570mの兜山との間に、西側に傾斜する台地が広がる。能見城防壁北側から派生する沢は西側に向かい、台地を大きく削る。遺跡は台地上と沢に向かう南側傾斜地に占地している。台地上では、平成3年度に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施されている。縄文時代中期藤内式期・曾利

II式期・曾利III式期、平安時代の竪穴住居跡や遺物が検出されている（第3図）。周辺には多量の遺物の散布が認められ、豊富な資料が内包されていることが窺える。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する穴山町には新府城の外郭とも、防壁とも指摘される能見城がある。

能見城の主体を成していたであろう能見城山は昭和初期の乱開発で見るに忍びないが、東西に走る七里岩を遮断する土壁などは、部分的には破壊されているものの比較的遺存状況は良い。

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構

縄文時代の竪穴住居跡2軒・土坑1基及び廐棄場、近世以降の溝を確認した。

1号竪穴住居跡（第7～10・15～17図）

斜面を造成して作られた直径6mの円形プランをした竪穴住居跡である。直徑約50cmの柱4本・出入口部支柱2本の柱穴配置で、奥壁から70cm内側に礫が二重にめぐり（以下「二重孤状礫列」と呼ぶ）、等間隔で炭化材が立った状態で確認され、その部分の礫は1つである。奥壁と二重孤状礫列の間には、厚さ18cmのロームを叩き詰めたような固い繩状の施設が作られている。

炉は、出入口部にやや寄った位置に構築され、大型盤状礫（鉄平石）を用いた方形石囲いである。奥壁に当たる北東部の礫が存在しないが、上面での擾乱が及んでいないことから故意に抜き取った可能性が高い。

覆土及び床面上から堀之内1～2式の土器群がまと

まって出土している。

遺物の接合関係をみてみると、住居跡内でまとめて出土するものが多いが、斜面へ落ち込んで接合している破片も目立つ。

K-53（1住-8）は竪穴住居構築時に不定形に掘削された浅い掘り込み（1住SK）を中心に出土したものである。同一個体が調査区内の斜面最下端から出土している。1住SK自身は住居機能時に貼床によってふさがれた状態であることから、破片の移動は住居構築初期段階に1住SKが掘削された際に、斜面へ廐棄されたものと考えられる。また、1住SKの底面には焼土及び地山被熱痕跡が見られ、覆土中から出土した獸骨も焼けていることが分析で確認されている。以上のことから、1住SKの掘削とK-53の廐棄行為は住居構築時の儀礼的な一連行為として位置付けることができる。

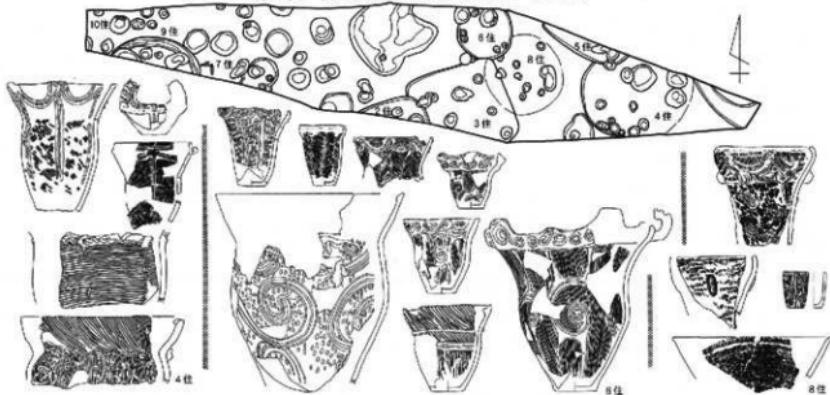
2号竪穴住居跡（第5図）



第1図 宿戸遺跡位置図（上：S=1/200000、下：S=1/25000）



第2図 宿尻遺跡調査地点位置図 (S=1/2000)



第3図 平成3年度調査地点遺構配置図と主要出土土器 (『宿尻遺跡』山梨県教育委員会1993より作成)

1号住居跡および1号土坑よりも古い遺構である。地床炉と東側に緩やかな立ち上がりの壁を確認したことから住居跡と捉えた。柱穴は確認できず、明確に床面を捉えることはできなかった。本住居跡に伴う遺物は特定できず、所属時期は不詳である。

1号土坑（第11・18図）

1号住居調査中に遺物のまとまりがあり、掘り下げた結果、地山を掘り込む土坑を確認した。遺物の出土位置図では遺構プランと遺物出土位置がずれているが、これは土坑掘削段階で斜面に対して垂直に土坑を掘ったためと考えられる。

覆土から堀之内1～2式期の土器が出土している。第18図に示したように同一個体の遺物は土坑内もしくはその周辺にまとまる傾向が強いといえる。K16をはじめとして土坑から離れて同一個体破片が出土しているが、これは後世の擾乱と考えられる。

廃棄場（第19～24図）

調査区内南側斜面に曾利II式からIV式及び縄之内式を中心とする遺物が散在し、上下層で異時期の混入が見られるものの大略層位毎に時期差が認められたことから廃棄場とした（第23・24図）。地形的には調査区東部の傾斜地においても同様な遺物廃棄が想定できるが、調査では認めることができなかった。このことは調査区東部斜面が縄文時代以降に掘削された可能性を示すものである。

出土遺物は土器中心であるが、石器や土偶などの土製品も出土している。

近世以降の遺構（第12・13図）

11本の溝遺構と8個のピットを確認した。

溝1は南北に走り、斜面部である南端で西側に向かって開口する。溝2～5・10・11は北東から西に向かって傾斜しながら掘削されている。溝6・7・9は南東から西に向かって傾斜しながら掘削されている。調査区内は溝の合流地点とも捉えることができる。なお、斜面下端で鉄分付着が平面的に確認されたことから、斜面の低位に向かって掘削された溝は鉄分付着がないものの用水路的な役割を担っていたと考えられる。

第2章 土器・土製品の分布・接合関係（第14～24図）

1号住居跡と1号土坑を中心として縄文土器が東斜面に集中する。時期毎の分布図が第23・24図である。

早期後半ではほとんど遺物は見られず、土器片1点と当該期の所産と考えられる特殊磨石（第39図200）のみである。諸磯式期も同様に遺物量は少ない。勝坂式期に入り、若干遺物量が増加するが、小さな破片資料である。宿尻遺跡での活動痕跡が確認できる早期後半から勝坂式期までは、生活の場として積極的に傾斜地を利用していないことを反映した出土状況といえる（第24図）。

曾利II式期に入る遺物量は格段に増加する。堀之内式期の住居があり、調査区北側の状況は不明であるが、包-16（K-69）をはじめとして大型破片が目立つようになる。遺物の接合状況をみてもまとまりをもつものが多く、曾利II式期以降に積極的に傾斜地を利用した施設行為が行われたものと考えられる（第19・20・23図）。

土器片製円盤が1号住居跡を中心に出土しており、住居との関連性を示唆している。土偶は、時期に関係なく斜面部の低位から出土する傾向がみられる（第14図）。

第3章 土器・土製品等（第25～34図）

1 縄文時代

早期後半、諸磯a～c式（第28図包-1～4）、五領ヶ台式（同図包-5）、洛沢式（同図包-6～8）、藤内式（同図包-9）、井戸尻式（同図包-10）、曾利II～V式（同図包-11～30図包-37）、加曾利E3～4式（第30図包-38～48）、堀之内1～2式（同図包49～31図包-124）が出土している。

早期後半は図示していないが鐵錐の含まれたやや厚手の土器である。

曾利III式では、結節縄文を施すものが出土している（第28図包-12・29図包-24・28・29）。第30図包-48は微隆起線の施された加曾利E4式であるが、地文に単節RL縄文と竹管T具によるハの字文が施された折衷的な土器である。

土器片の周辺の摩滅した土器片製円盤が5点出土している（第33図）。部位はすべて胴部であり、時期は曾利式後半（DE-1）、堀之内式（DE-5）でその他は不明である。

土偶は6点出土している（第34図DG-1～6）。DG-1・2・4は曾利式前半の所産である。DG-1には熱によるアバタ状の剥落が見られるが、土偶の機能とうに関連性があるかは不明である。DG-5・6は曾利式後半の土偶であり、いずれも頭部である。5の後頭部にはつまみ状の把手が付けられている。

ミニチュア土器は2点出土している（第34図MN-1・2）。いずれも手づくねである。

手握ったような形をした焼成粘土塊が1点出土している（第34図SN-1）。粘土内に土器や土偶の胎土にみられる砂粒等がなく、粘土そのものが焼成したものと考えられる。

2 古墳時代

古墳時代前期のS字状口縁台付甕の破片が出土している（第31図包-126～129）。当該期と断定できる遺構を確認していないが、1号住居斜面上方の奥壁部上の土坑がその可能性を持つ。平成3年度調査でも遺物が出土していることから周辺で居住活動がおこなわれ、斜面地である本調査区において何らかの行為の反映と考えられる。

3 近世（第32図）

土器では内耳錐（近-1）やかわらけ（近-7）、陶器では鉢錐（近-2～3）、甕（近-4）、碗や小皿、磁器では碗・湯呑碗や大皿などが溝や造物包含層から出土している。

内耳錐（近-1）には焼成後の貫通孔と未貫通孔があり補修の痕跡と考えられる。

湯呑茶碗（近-8・9・16）は肥前で16世紀後半に生産されたものである。このころから磁器が大量生産され各地にもたらされたとされている。近-9の休部の横線文は鉄釉施釉である。

近-10は肥前磁器であり、口唇部内側を釉剥ぎしたものである。

調査区からは17世紀後半から18世紀代の遺物が出土しており、能見城防壁使用時にまでさかのぼるものは現在出土していない。防壁よりも北側で日常生活道具が遺存するような土地利用がなされたのは、近世初頭以降の可能性が高いといえる。

第4節 石器の分布・接合関係（第35図）

個々の石器については次節に譲り、ここでは分布状況について報告する。なお、ここで用いる石器とは礫を含む広義の石器である。

土器と同じく1号住居跡及び調査区西側斜面に分布し、南側斜面は皆無といえる。

石礫や削器（粗製横形・粗製縦形・素刃など）の分布は散漫とし、集中することはない。

打製石斧や石皿は1号住居跡内やその周辺にやや集中する傾向がある。

磨製石斧は1号住居跡内の出入口部と想定される対ビットの両脇に2点づつ出土している。第38図186・187が北側ビット周辺、同図188・189が南側ビット周辺でいずれも床面からやや浮いた出土であり、それぞれ完形品と欠損品の組み合わせで、意図的な廃棄と考えられる状況である。

棒状礫（使用痕跡の認められない棒状の礫）は1号住居跡内から出土量の約8割が出土している。このような分布は棒状礫が自然に遺跡内に存在したのではなく、故意に持ち込まれたことを示唆している。使用方法は不明であるが、1号住居の所属時期である堀之内式期の石器組成の一翼を成す石器と捉えることができる。

石器の接合は少なく、石皿（背面は多孔）（第41図219）が接合しているのみである。

第5節 石 器

1 整理の方法

蔚崎市教育委員会で選択された二次加工等のある石器について、台帳を兼ねた属性表を作成し、石器のランク付けをおこなった。ランクの内容はAランク（実測図有）、Bランク（実測図無）、Cランク（記述無）である。

なお、資料体として記述の必要な石器には、すべて通番を付けた。通番は石器整理専用番号である。

2 石器の内訳

石礫14点（全点Aランク）、小形剥片石器Aランク23点、小形剥片石器B・Cランク125点、粗製剥片石器Aランク25点、粗製剥片石器Bランク24点、磨製石斧5点（全点Aランク）、礫石器Aランク19点、礫石器Bランク11点、棒状礫（全点Bランク）30点である。岡化総点数96点。属性表総数287点である。

3 属性表の項目

法量：長さ・幅・厚みを基本として、必要に応じて重量を計測した。また図面のないものの法量は記載していない。

器種：宿尻遺跡では、技術的・形態的な定義で器種を記述した。詳細は石器の説明項目で記述する。

剥離技術：ハンマーの種類と身振りによって、6種類の剥離技術を記述した。凡例は次のとおりである。

直接打撃+ハードハンマー=HD

間接打撃+ハードハンマー=HI

押圧剥離+ハードハンマー=HP

直接打撃+ソフトハンマー=SD

間接打撃+ソフトハンマー=SI

押圧剥離+ソフトハンマー=SP

4 石器の詳細

記述するにあたり番号は石器専用番号を用いてあるため、調査時の番号とは異なる。また、図版は器種ごとに整理した。

① 小形剥片石器（第36図）

黒曜石を主体に、珪岩も用いる石器類。鋭い刃部をもつ石器である。

石礫（1～28）

石礫はすべて凹基盤で、グリッド出土である。長さ20mm前後の大きさの石礫と、長さ10mm前後の小さな石礫がある。後者は、「極小石礫」として、通常の石礫とは別に記載した。通常の石礫と極小石礫では、コーン径が違う。後者のコーン径が小さいので、工具の先端形状が使い分けられている可能性がある。石材は珪岩が1点、黒曜石は14点である。押圧剥離は比較的の変形にくい工具（ハードハンマー）を用いている。稜線の立ち方や打点の潰れ、コーンの発達度合いをみて、剥離時にほとんど変形しない工具（ハードハンマー）と変形するが、変形度の低いハンマー（ソフトハンマー）を推定して属性表に記載した。数量が少ないので、統計検定はできないが、この場合のハードハンマーと変形度の低いソフトハンマーは、同じ工具の可能性もある。

石礫素材（26・38・67・65）

石礫の素材と推定される両極剥片を4点図示した。26は微細な押圧剥離の加工があり、極小石礫の未製品と推

定される。38・65も同様である。67は貝殻上の両極剥片であるが、通常の石錐の素材と推定される。

石錐 (27・30・31・33・41・43・44・71)

石錐は加工と素材の組み合わせで4種類ある。剥片の辺をそのまま用いる石錐と加工によって刃部を形成する石錐がある。それぞれ、両極剥片・両極石器(両極打撃)と間接打撃・直接打撃による素材がある。44は剥片の尖った側辺をそのまま刃部に利用している。31と30は両極石器を素材にして、その尖った末端辺を刃部にしている。41と27はおそらく間接打撃の縦長剥片が素材で、ハードハンマーの押圧剥離(HIP)で刃部を形成している。43と33は、両極石器が素材で、ハードハンマーの押圧剥離(HIP)で刃部を形成している。71は黒曜石製の石錐で、HP(ハードハンマーの押圧剥離)で刃部を形成し、微細な刃こぼれが主要剥離面の片側辺に付いている。

小形削器類 (45・42・46・40・47・49・54・70)

鋭い刃部を形成する石器を小形削器類とした。45は緩やかなつまみをもち、横形石匙に類似する形態である。刃部は素材の鋭い辺である。この形態は粗製削器類の110と同じである。42は垂直剥離の剥片の鋭い辺に刃こぼれが観察できる。46は間接打撃の剥片のバルブ部分をハードハンマーの押圧剥離で整形され、縦形石匙の形態に類似する。40は両極剥片素材の使用痕剥片。49は小さな打面の残る間接打撃の剥片に使用痕のあるもの。54は直接打撃の剥片に使用痕が観察できるもの。70は黒曜石製の小形剥片石器で、両側辺に微細な刃消し加工で抉りを入れている。47は土坑出土の使用痕剥片。HD(ハードハンマーの直接打撃)で剥離されている。

剥片剥離の資料 (25・50・51・52・60・63・64・72)

25はしっかりした打面の間接打撃剥片。51は間接打撃の剥片。60は間接打撃の石核。52は間接打撃の剥離痕がある小礫。50は両極剥片。63は躊躇に持ち込まれた原石である。72は間接打撃で剥離された端正な小剥片で、おそらく目的的な剥片である。

②組成薄片懸図器類 (第37図)

砂岩や粘土質など、肌理の粗い石材を素材にした削器類。素材剥片の鋭い辺を刃部に用いる横形と、素材剥片の辺に刃部を形成加工のある縦形の2種類がある。

横形粗製剥片削器 (192・112・116・122・115・155・121・110・151・153)

192はつまみを明確に作り出した「粗製石匙」。112は緩やかなつまみをつくる削器。116はつまみは無いが、裏面につまみをつくるような対になる加工がある削器。122は正面右端に小突起を直接打撃で形成する削器。115は対になるが鋭い成形加工のある削器。155はハードハンマー直接打撃で成形し、鋭い辺に間接打撃でやや鋸歯状になる刃部をつくる削器。121はハードハンマー直接打撃で粗い成形加工を行った鋸歯縁削器。大形の横形粗製剥片削器。粗い直接打撃でつまみを形成し、刃部は尖っている。この石器の形態は、小形剥片削器の15

と同じである。151は大きな直接打撃の剥片の打面を成形し、末端辺を刃部にしている石器。153は打面を折取り、素材の辺に粗い加工で刃部を形成している削器。

縦形粗製剥片削器 (138・133・113・114・111・126)

138は珪岩製。ハードハンマーの直接打撃で刃部と成形加工を行っている。133はつまみをつくる粗製縦形石匙。114もわずかにつまみを形成する。111は小突起状のつまみを形成し、114と126は胴部に単発の剥離による抉りを入れ、やや屈曲する形態にしている削器。

③打製石斧・石彈・輕石製品 (第38図)

打製石斧 (154・156・158・157)

154と156はバチ形の打製石斧。158と157は分銅形の打製石斧。158の刃部は潰れており、敲打具の可能性がある。一方バチ形の打製石斧は、石之坪遺跡などを参考にすると頑丈なエッジをもつ刃部を形成している。バチ形と分銅形は、機能的に作り分けられている可能性もある。

石彈 (212) と輕石製品 (194)

加工はないが、真珠に近い形態である。意識的に遺跡に持ち込まれたと推定したので、図示した。194は輕石である。

④磨製石斧・擦切石錐 (第38図)

磨製石斧 (187・186・189・188・193)

187は硬質黒岩製の磨製石斧。研磨のみで成形されている。186は蛇紋岩製の磨製石斧。刃部に使用痕が顕著に観察できる。189は硬質砂岩製の胴部断片。188は硬質砂岩製の磨製石斧。研磨のみで成形されている。193は中形で蛇紋岩製の磨製石斧。この磨製石斧のみ敲打形が観察される。

擦切石錐 (190)

丁寧な擦りきりでつくられた切目石錐。重量は46.6g。この種の石錐は、魚網ではなく、浅流釣りの石錐という民俗例があると聞いています。

⑤礫器 (第39図)

礫器は、自然礫や分割礫を素材に用いた頑丈な刃部をもつ石器である。両刃礫器 (147・146) と片刃礫器 (150・148) がある。145は大形礫器で住居から出土している。頑丈な刃部をHD(ハードハンマー直接打撃)で形成し、両側辺が摩耗している。河原の楕円礫が素材である。

⑥敲石・特殊磨石 (第40・39図)

敲石は円礫の周囲に敲打痕が残るもの (202) と楕円礫の端部に敲打痕の残るもの (207) の2種類がある。前者は石器のハンマーの可能性がある。磨石は、楕円礫の平面に磨面をもつもの (205・203) と楕円礫の鋭い側辺に磨面をもつ「特殊磨石」 (200・201) の2種類がある。200の磨石には使用による敲打痕が観察できる。201も特殊磨石で、楕円礫の鋭い側辺が機能部である。

⑦凹石・磨石・石皿・多孔石・石棒 (第40・41図)

磨石・石皿・凹石

204~198は凹石である。204・203・198は磨石に

凹石の痕跡が重なった石器である。

221・220は大形石皿の断片である。208・211は小形石皿である。大形石皿は破損している。小形石皿は精巧な平面をそのまま利用している。おそらく大形と小形では、作り分け・使い分けがなされている可能性がある。

217は安山岩の礫を、219は中形の石皿を素材にした多孔石である。くぼみは硬く先端が尖る工具を、垂直に当てていることで生じている。その意味は不明である。

石棒（第41図）

213と214は石棒である。胸部の断片で、いずれも被磨耗である。破断面を磨いている。

第6節 自然科学分析

宿尻遺跡から検出された遺構の年代や住居跡内から出土した炭化物・炭化材・骨片の種類等を明らかにするため、放射性炭素年代測定・炭化材同定・種実遺体同定・骨同定を実施する。

1 試料

分析試料は、縄文時代後期と想定されている住居跡から出土した炭化材・骨片、さらに、土器集中下の土坑から採取された種実遺体である。

炭化材は、住居跡の縁辺付近に構築された2重の縁石間から等間隔で出土した4点（試料番号1～4）である。種実遺体は、3Gグリッドから検出された土器集中下の土坑から採取された2点（試料番号6・7）である。骨片は、住居跡内に認められた住居構築時に作られた浅い掘り込みの不定形土坑から出土した2点（試料番号5）である。

以上の試料について、それぞれの試料の種類を明らかにするため、炭化材の樹種同定・種実遺体同定・骨同定を実施する。また、種実遺体同定試料については、遺構の年代に関する資料を得るために、併せて放射性炭素年代測定を実施する。なお、各試料の詳細は結果とともに示す。

2 分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。なお、 $\delta^{13}\text{C}$ の値は、加速器を用いて試料炭素中の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、標準試料PDB（白亜紀のペレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（%：パーミル）で表したものである。

（2）樹種同定

木口（横断面）・歯口（放射断面）・板口（接線断面）の3断面の削断面を作製し、光学顕微鏡を用いて木材組

織の特徴を観察し、種類を同定する。

（3）種実遺体同定

双眼実体顕微鏡で種実遺体を観察し、形態的特徴および当社所有の現生標本との比較から種類の同定を行う。同定後の種実遺体は、種類毎にビンに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液による液浸保存をおこなう。なお、試料番号6の一部については、放射性炭素年代測定試料としたため残存しない。

（4）骨同定

試料に付着する土壌を筆により除去し、補強のためアクリル樹脂であるバラロイドB72アセトン溶液を塗布する。同定は肉眼観察により、現生標本と比較して行う。

3 結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表5に示す。3Gグリッドの上器集中下の土坑から採取された炭化物の測定年代（補正年代）は、約3730年前の年代値を示した。

（2）樹種同定

住居跡から出土した炭化材は、全て落葉広葉樹のクリに同定された。以下に、主な解剖学的特徴を記す。

クリ (*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*) ブナ科クリ属

塊孔材で、孔團部は1～4列、孔團外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。放射組織は同性、單列、1～15細胞高。

（3）種実遺体同定

土器集中下の上坑から出土した種実遺体は、オニグルミであった。

オニグルミ (*Juglans mandshurica Maxim. subsp. Sieboldiana (Maxim.) Kitamura*) クルミ科クルミ属

試料は、オニグルミの核の破片であった。完全に炭化しており、黒色を呈する。大きなもので10mm程度だが、数mm程度の個体が多い。完形ならば、広卵形で先端部分がやや尖り、1本の明瞭な縫の縫合線がある。内部には子葉が入る2つの大きな窓みと隔壁がある。核皮は硬く、表面は縱方向に溝状の浅い彫紋が走りごつごつしている。

（4）骨同定

住居跡内の不定形な掘込み（JU1 SK）から出土した骨片の同定・観察の結果を表4に示す。本試料は、大きさや形態からイノシシの可能性が高いが、歯冠が残存せず、また繊片であるため断定は避けたい。

JU1 SK・No.72には上頸骨の歯槽骨破片が、JU1 SKには上頸骨・下頸骨の歯槽骨や歯根の破片が含まれ、いずれも頭蓋骨の破片であることが確認できた。骨はすべて灰白色を呈する焼骨である。硬化は見られず、保存状態はあまり良くない。

第4章 ま と め

第1節 穫穴住居跡の構築からみた住まい

第2章内で報告した第1号住居跡の覆土形成状況から、竪穴住居の構築及び構造にかかわることについて説明を加えておく。

1号住居跡の覆土は、上層（1a～1d層）・下層（3・4層）・壁際堆積（2a～2c・5層）・掘り方（9層）・配石埋設土（6a～8b層）、棚状造構構築土（10・11層）の6つに大きく促らえることができる。各層から想定される住居ライフサイクルへの位置付けをおこなう。

掘り方はやや凹凸があり、ハードロームと暗褐色土が混じたものであり、床面はやや堅くしまっている。粗掘りをした後に整地したことがわかる（第4図1・2）。

整地後、主柱を立てる穴を掘削し、柱を埋めて床面を平坦にする（同図3・4）。ただし、上層構造がこの時点まで作られたという確証はない。

床面を平坦にした後、奥壁の2本の柱穴間に、幅広の不定形な弧状の浅く凸凹した窪みを掘削する（1住SK）。その窪みの覆土からは焼骨、焼土や炭化物が多く含まれ、火を用いた行為が行われている（同図5）。覆土巾から出土した土器片が調査区内斜面下端部出土土器片と接合し、また二次的な熱を受けており、これらの土器片も行為の一部として用いられたといえる（第25図1住-8）。行為の後、浅い窪みは埋め立てられる（同図5）。

配石を埋設するため、奥壁柱穴間に弧状の幅の狭い窪みが掘削され、礫が埋設される。礫とともに木材も等間隔に設置される。木材自体は小さく、上層構造を支持するものではないと考えられる（同図6）。

配石設置と前後関係は不明であるが、奥壁から住居内

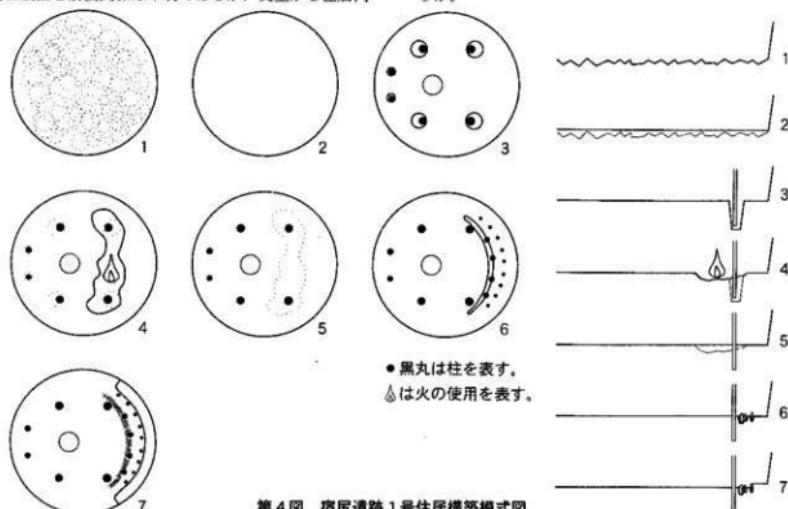
にやや入ったところに等間隔に細いビットが作られる。このビットは大きさや底面の形状から判断して、掘削ではなく、杭を打ち込んだものと思われる。杭と奥壁の間に暗褐色土を入れ、その上をハードロームによって堅く貼り、棚状造構を構築している（同図7）。

以上が、覆土形成等から遡った住居の竪穴内に関する構築手順である。次に、上層構造あるいは竪穴周辺の構造について触れておく。

上層構造は茅葺きであったことが古くから指摘されてきたが、近年では東北地方を中心に土屋根の発掘例が増加している。また、竪穴周辺については周堀や居住空間範囲などが問題とされてきた。今回の調査でこれらのこととを直接論じる資料は得ることができていないが、覆土上層が異質であり、その点から可能性を述べる。

住居廃絶後に壁際に土壌が堆積し、下層が引き続き竪穴内を埋めしていく。三角堆積によるロームブロックが混在するのは、廃絶前後に壁自体の崩落等によるものであろう。下層はロームブロックを含まず、上層をはじめとする遺物が多く含まれ、住居機能時及び廃絶後の廃棄行為を示唆している。下層の形成により竪穴内は若干の窪地を残して埋没した状況となる。本来であれば、そのまま斜面から流れてきた土砂により完全に埋没することとなるはずであるが、上層が厚く堆積している。

上層はやや大きめのロームブロックを多く含む暗褐色土である。また、斜面上方にあたる奥壁部で厚く、下方に向かうにつれて薄くなる。この層を形成する土壤が周堀あるいは土屋根の根部に起因する可能性がないであろうか。



第4図 宿尻遺跡1号住居構築模式図

このように、覆土地積状況等を検討することで、堅穴住居の構築手順や上屋構造を想定することが把握可能であることを示した。検討方法を精査し、手順・技術をはじめとする住居属性を明らかにすることで、平面的な比較で議論されることの多い住居型式論を深化させることができるとなる。

なお、住居を作り始めるにあたり、場所の選定がなされるが、その選定要素については今回の調査では把握できていないため、今後の課題としておく。

第2節 宿尻遺跡の石器群

・石器群の構造

宿尻遺跡は、斜面に廃棄された曾利式の土器と、斜面を造成してつくった柄鏡型住居と堀之内1式土器の遺跡である。

上器型式では明確な差異があるものの、石器群構造にはみられない。堀之内式に伴う特徴的な石器は、分銅形打製石斧と凹石であろう。

石器群の構成は、黒曜石を特徴とする小形剥片石器、肌理の粗い石質（石材は多様である）の粗製剥片石器・打製石斧・礫器類・礫石器類、細粒堆積岩・蛇紋岩の磨製石斧である。この構成で非常に興味深い点がいくつあるので、以下に詳述する。

磨製石斧以外は、石質・剥離技術・形態に一定性が顕著である。磨製石斧だけは、細粒砂岩・凝灰岩と蛇紋岩という2種類のものがある。蛇紋岩には敲打成形が観察されるので、磨製石斧は技術構造と石質の異なる石器が併存している。

次に削器について技法的に興味深い事実がある。削器には黒曜石の小形剥片削器類と、安山岩などの粗製中形剥片削器類がある。それぞれの石質と大きさが異なる点であるが、デザインに相互親和性がある。

まず、両方の削器類には「石匙」と呼称されるつまみを付ける削器がある。またつまみを付けない削器もある。この点からみると削器には2種類あるといえる。しかし、石匙のつまみと削器の緩やかなつまみ、胸部に彎曲を生む対になる加工は、それぞれ連続的な変異をみせ、石器の中には非常に複雑なつまみを付けるものなどがある。こうした現象は、小形剥片削器類と中形粗製削器類に共通している。

この現象を型式学的に検討すると以下のような仮説が提示できる。

宿尻遺跡には、石匙と、石匙を模した削器の2種類がある。問題点は小形剥片削器と粗製剥片削器の両方に、石匙を模した削器がある点である。

これは、つまみのある石匙が異文化の石器として宿尻遺跡に持ち込まれ、宿尻遺跡文化の中で削器と石匙が共存し、なおかつ折衷型式が生じたのであろう。

次に蔚崎市石之坪遺跡の例を参考に宿尻遺跡の石器群構造をみると、石匙と磨製石斧は曾利式土器文化に本來

的に伴う石器ではなく、それぞれ別の伝統の石器が曾利式土器文化と接触し、磨製石斧は磨製石斧で、削器類は削器類で折衷石器が生まれると推定される。

今後は分析を積み重ねることで、縄文文化が一系統の文化伝統でなく、多種類の文化伝統の折衷文化であることが、石器を用いて詳細に記述できるであろう。宿尻遺跡はその際の好資料である。

・黒曜石原産地分析

宿尻遺跡では、黒曜石の原産地分析を行った。分析者は沼津高専の望月明彦教授である。分析詳細は望月教授の作成したデータを参照していただきたい（第42図）。

分析した黒曜石は72点である。AランクとBランクの黒曜石はすべて分析した。望月教授の分析によると、鷹山4点、冷山1点（石巣）、和田小深沢3点、和田高松沢1点、推定不能2点、星ヶ台61点である。

この原産地分析からは、星ヶ台産の黒曜石が、宿尻遺跡の主要石材であることが明らかであり、星ヶ台産の黒曜石は、宿尻遺跡に持ち込まれ、徹底的に消費されていることがわかる。

一方、星ヶ台以外の原産地の黒曜石は、手をつけないで残されている石核や原石、中途剥離の石核素材などであることが黒曜石製器のあり方である。具体的には和田小深沢産（2点の石核素材・石核）、和田高松沢産（1点の原石）、鷹山産（1点の石核）である。

以上の点より、遺跡に持ち込まれた黒曜石はその石質が選択され、使用に耐えられないものには手をつけていないか、途中で放棄しており、その石質選択は黒曜石の原産地属性と深い関係をもつことが仮説化できる。

次に、わずかな量の星ヶ台産以外の黒曜石が混在する点について触れておく。縄文中期後半から後期にかけて、頻繁な移動を行う居住形態は考えにくいことから、宿尻遺跡の黒曜石の供給状況について、直接採取や、直接採取集団との単純な交換・交易ではなく、複雑なトレード制度の存在が考えられる。今回の分析は、その様相を明らかにできる貴重なデータであると評価できる。

第3節 宿尻遺跡の自然科学分析

（1）遺構の年代観

宿尻遺跡の土器集中下から検出された土坑より採取されたオニグルミは、約3700年前の年代値を示した。分析試料となったオニグルミは、出土状況から土坑機能時、または土器集中が形成される前に土坑内に混入したと考えられ、本遺構との共存性も高いといえる。したがって、本遺構の年代観は、約3700年前の縄文時代後期頃であると考えられる。

（2）植物利用

宿尻遺跡辺付近の二重の縁石間から出土した炭化材は、全てクリに同定された。縄文時代においてクリが認めら

れた分析調査例は、隣接する関東地方では多數確認されており（千野裕道1983「縄文時代のクリと集落周辺植生」『東京都埋蔵文化財センター研究論集II』,1991「縄文時代に二次林はあったか」『東京都埋蔵文化財センター研究論集X』；高橋敏他1994「樹種同定からみた住居構築材の用材選択』『PALYNO2』）、山梨県でも白州町上北田遺跡や社口遺跡などで認められている（パリノ・サーヴェイ株式会社1993「上北田遺跡から出土した炭化材および炭化種子の同定」『上北田遺跡』；植田弥生1997「社口遺跡から出土した炭化材の樹種』『社口遺跡第3次調査報告書』）。以上の既存の分析調査例によれば、木造跡における住居構築材にクリが利用されている結果も頗る的である。

土器集中下から検出された土坑に認められた堅果類のオニグルミは、アケ抜きをせずに生食・長期保存が可能で、収量も多い。そのため、古くから里山で保護・採取されてきた有用植物である。

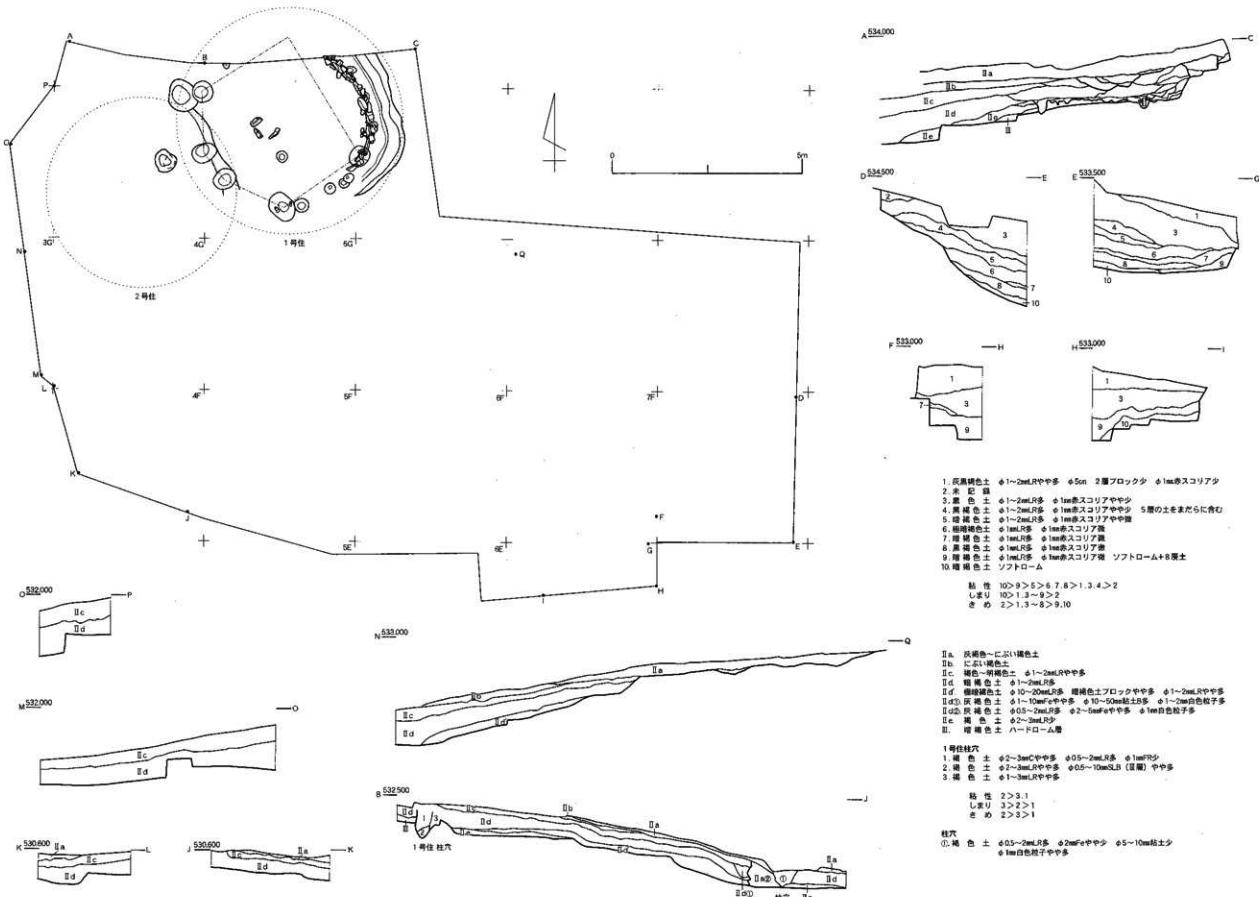
（3）出土骨について

住居跡内の不定形な掘り込み（JU1SK）から出土した動物骨は、イノシシと考えられる頭蓋骨の破片であった。焼骨の細片であるため詳細は不明であるが、被熱により収縮していることを考慮しても、イノシシであればあまり大きくない個体と考えられる。なお、JU1SKは、住居跡構築時の造構と考えられ、掘り込みは住居使用時

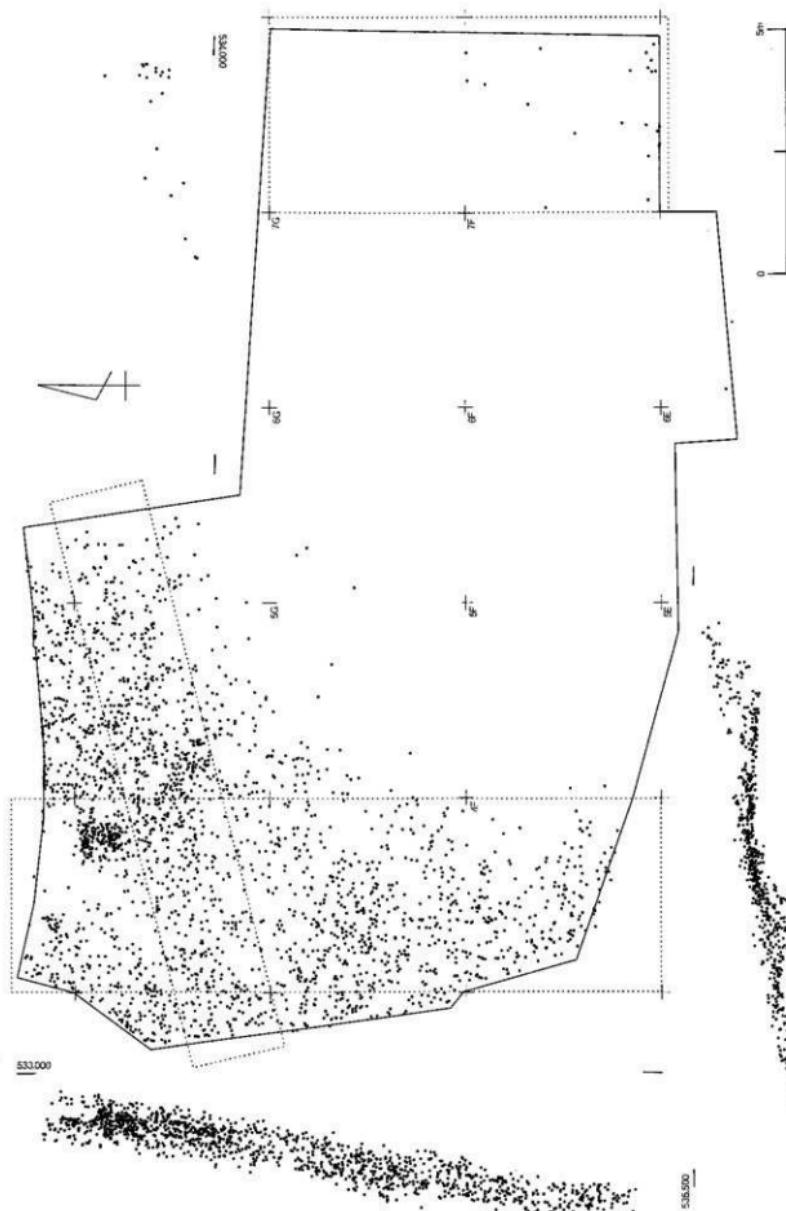
には貼床が施されている。なお、この掘り込みからは、骨片のほか焼土や被熱の痕跡などが認められていることから、当遺構内で火を焚くといった行為も想定される。試料である骨片は焼骨であることから、当遺構内で焼かれた可能性も考えられる。

なお、丹羽百合子は内陸部の縄文時代の遺跡から出土する焼骨について、貝塚や多くの包含地では内陸部の遺跡と同程度に焼骨が含まれていることが少なく、内陸部の遺跡でだけ偶然的に焼骨となり残存したと言えないことから、焼骨自体が特殊な意味を持つと述べている（丹羽1994「解体・分配・調理」『縄文文化の研究2 生業』）。このような動物骨が焼骨の状態で出土した例は、山梨県垂崎市石之坪遺跡の縄文時代中期の住居跡からイノシシの焼骨が出土した例や山梨県北巨摩郡大泉村金生遺跡の幼獣を主とするイノシシの焼骨の出土例（金子浩昌1989「金生遺跡出土の獸骨」『金生遺跡II（縄文時代I）』）、長野県埴科郡戸倉町円光房遺跡の縄文時代前期～後期の住居跡から焼骨が出土し、イノシシを中心とした動物の骨を焼く行為が認められる例（金子1990「円光房遺跡における焼獸骨の調査」『円光房遺跡』）など、中部地域に類例が認められている。

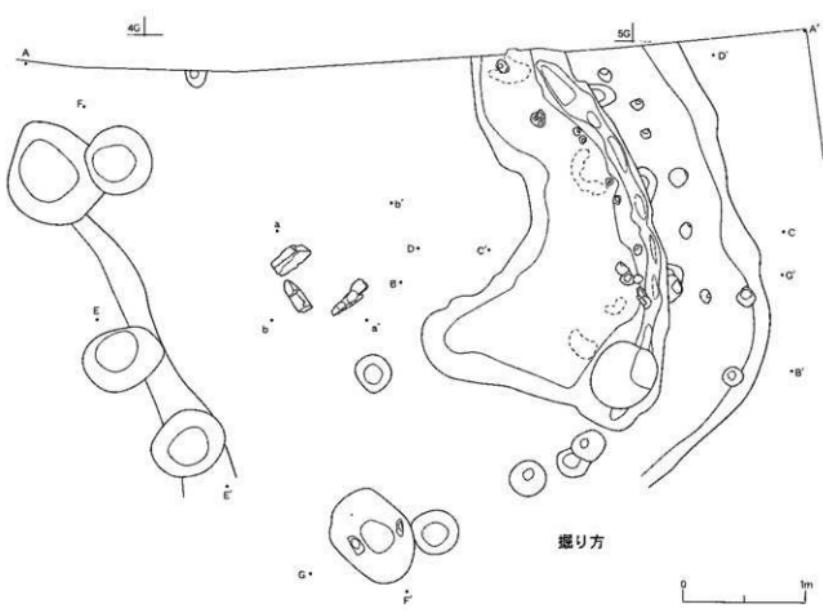
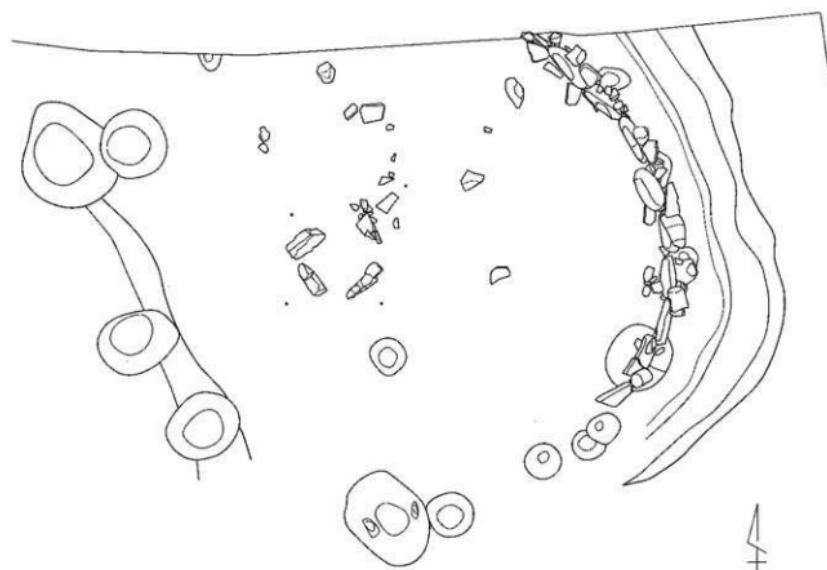
本遺構の性格については、出土骨や上記の類例のみで明らかにすることはできない。今後は、同様な遺構の類例や動物骨の種類や出土状況など分析調査例や考古学的成果を収集・蓄積し、評価したいと考えている。



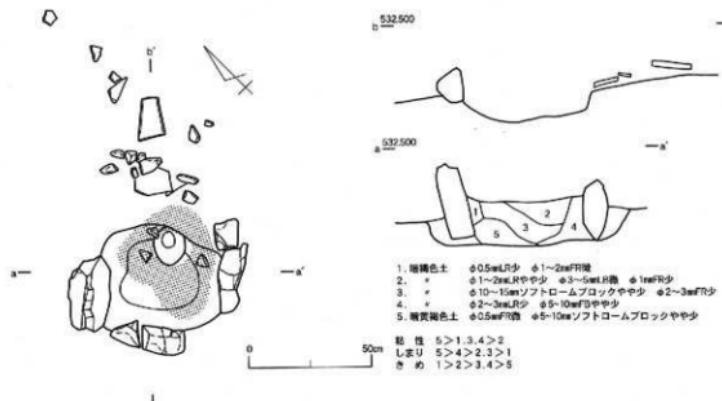
第5図 縄文時代遺構全体図・調査区土層断面図 (S=1/100)



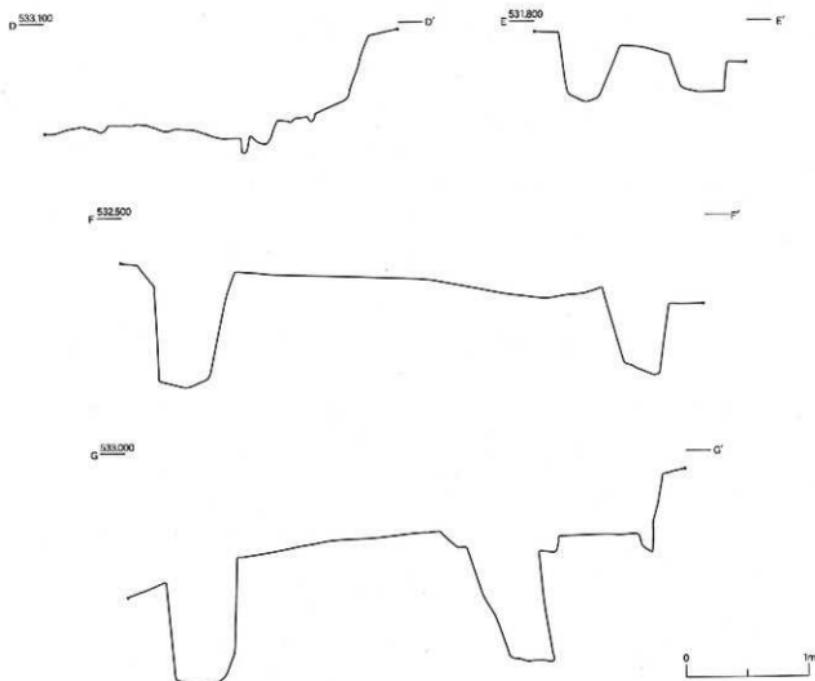
第6図 繩文土器出土位置全体図 (S=1/100)



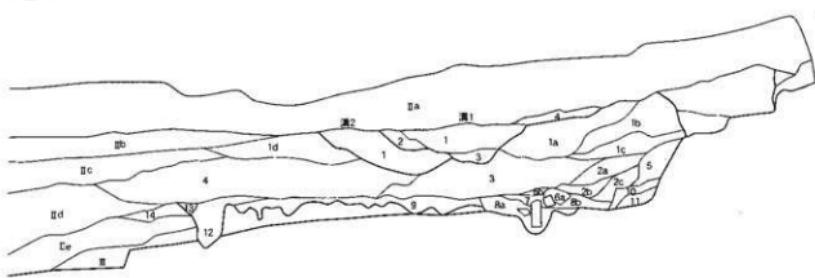
第7図 1号竪穴住居跡 平面図 (S=1/40)



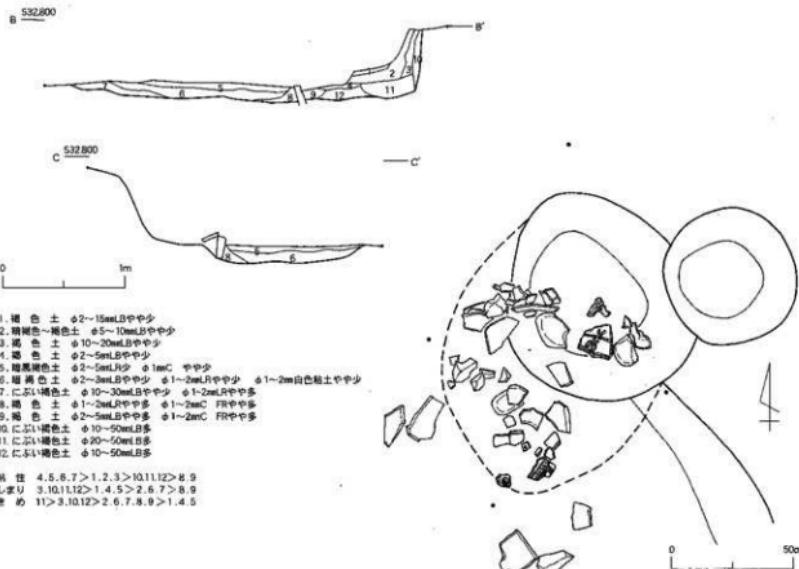
第8図 1号竖穴住居跡 (S=1/20)



第9図 1号竖穴住居跡 断面図 (S=1/40)



Ia. 非褐色土上に ない褐色土	ⅰ. 棕褐色土上に ない褐色土・褐紅色土 ⅱ. 褐紅色土上に ない褐色土	ⅰ. 棕褐色土上に ない褐色土・褐紅色土 ⅱ. 褐紅色土上に ない褐色土	ⅰ. 棕褐色土上に ない褐色土・褐紅色土 ⅱ. 褐紅色土上に ない褐色土
ⅰ. にない褐色土	ⅰ. にない褐色土 ⅱ. 褐紅色土 ⅲ. 褐色土	ⅰ. にない褐色土 ⅱ. 褐紅色土 ⅲ. 褐色土	ⅰ. にない褐色土 ⅱ. 褐紅色土 ⅲ. 褐色土
ⅱ. 褐紅色土 ⅲ. 褐色土	ⅰ. ~2cmRLやや多 ⅱ. ~2~3cmRLやや少 ⅲ. ~3cmRLやや少	ⅰ. ~2~3cmRLやや多 ⅱ. ~2~3cmRLやや少 ⅲ. ~3cmRLやや少	ⅰ. ~2~3cmRLやや多 ⅱ. ~2~3cmRLやや少 ⅲ. ~3cmRLやや少
ⅲ. 褐色土 ⅳ. 黑褐色土	ⅰ. ~0.5mFR ⅱ. ~5~10mソフトロームブロックやや少 ⅲ. 黑褐色土 ⅳ. ハードローム層	ⅰ. ~0.5mFR ⅱ. ~5~10mソフトロームブロックやや少 ⅲ. 黑褐色土 ⅳ. ハードローム層	ⅰ. ~0.5mFR ⅱ. ~5~10mソフトロームブロックやや少 ⅲ. 黑褐色土 ⅳ. ハードローム層
1. 褐色土 2. 褐色土 3. 褐色土 4. 褐色土	0.5~30mLB多 ~2~5mLB少 ~2~5mLB少 ~5~30mLB多	0.5cmC少 0.5cmC少 0.5cmC少 0.5cmC少	0.5cmC少 0.5cmC少 0.5cmC少 0.5cmC少
2. 1. 褐色土 2. 褐色土 3. 褐色土 4. 褐色土	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少
2. 1. 褐色土 2. 褐色土 3. 褐色土 4. 褐色土	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少	~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少 ~1~2cmLB少

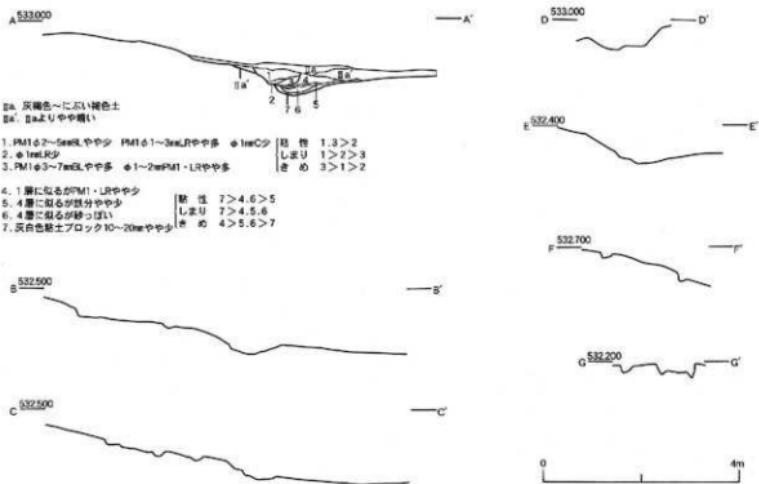


第10図 1号堅穴住居跡 断面図 (S=1/40)

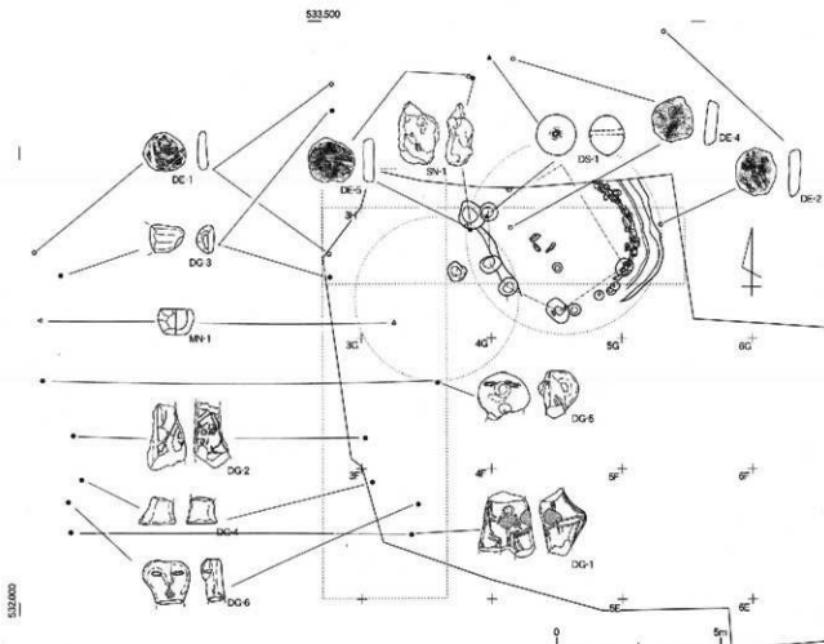
第11図 1号土坑出土状況図 (S=1/20)

第12図 近世以降溝・ヒット全体図 (S=1/100)



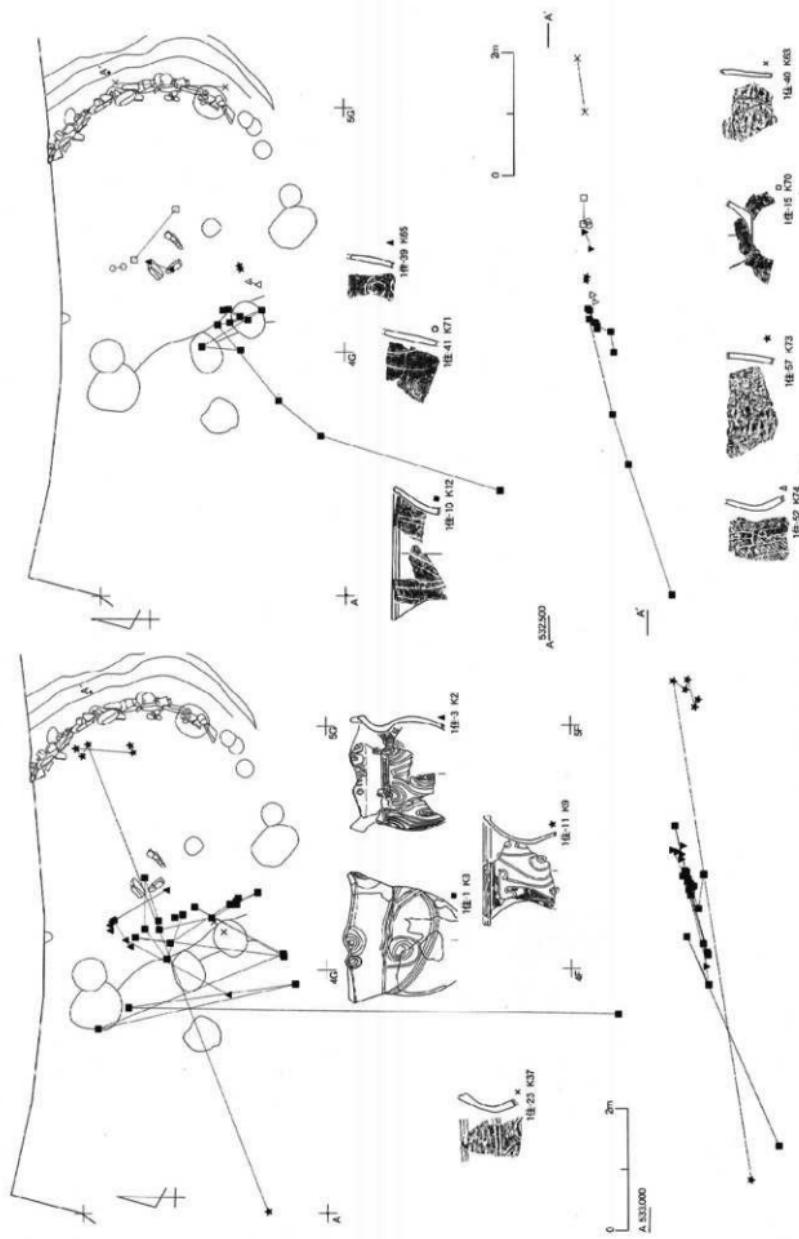


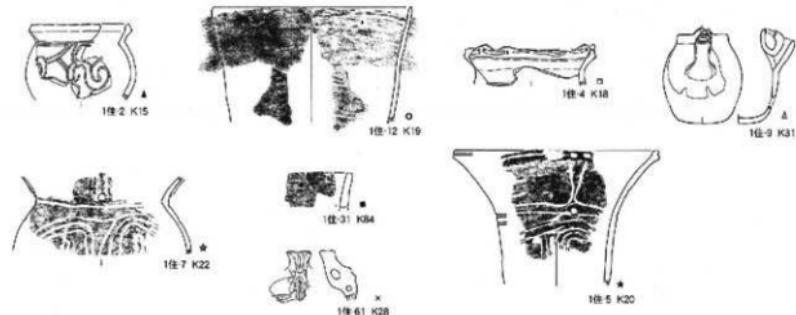
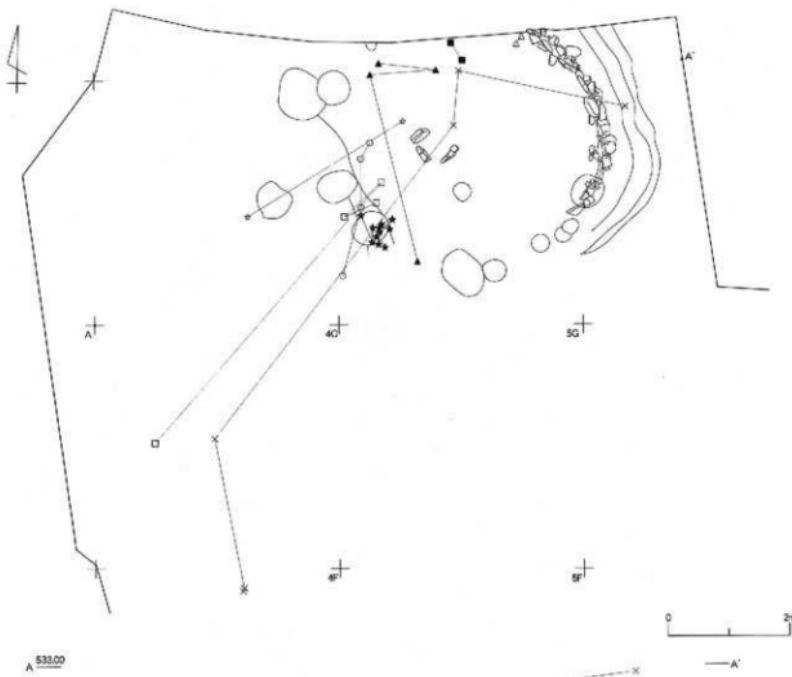
第13図 近世以降溝・ピット 断面図 (S=1/100)



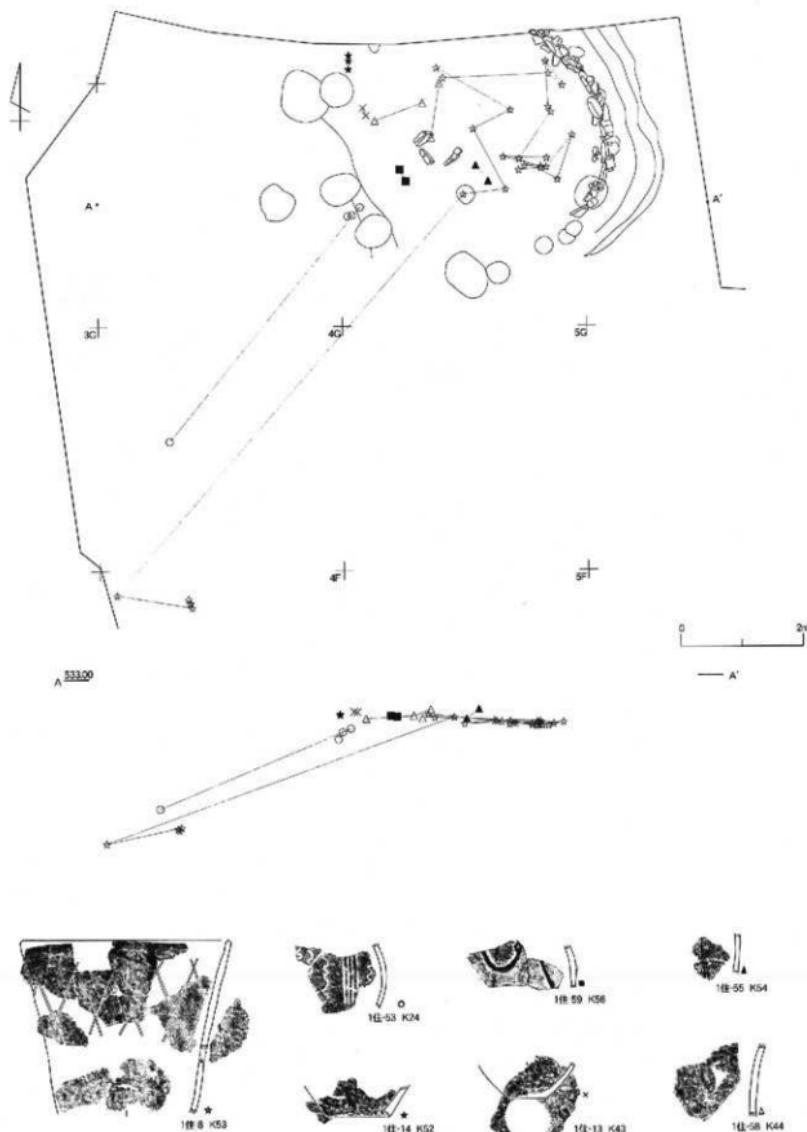
第14図 土製品出土位置図 (S=1/150)

第15圖 1號堅穴住居跡遺物分布・撮合狀況①

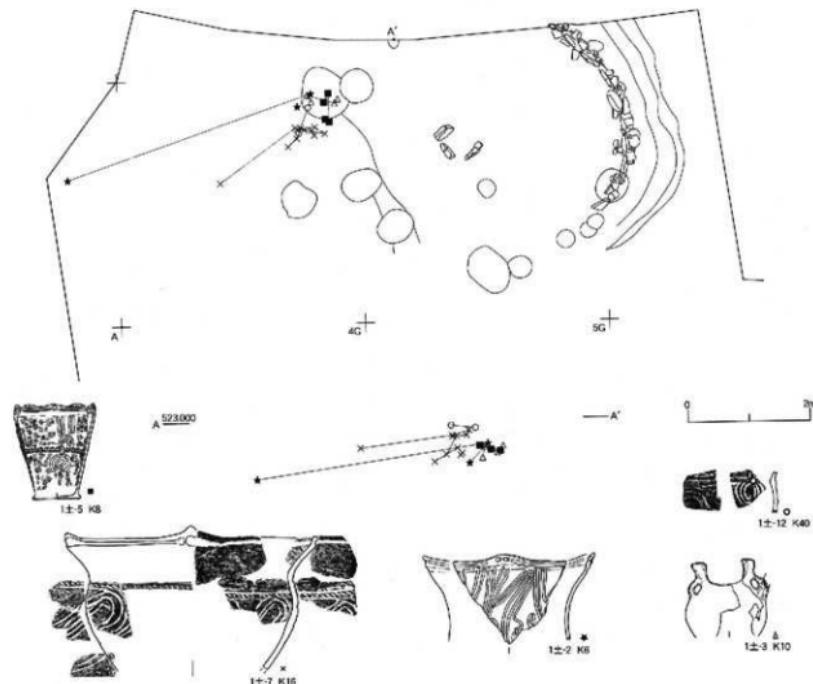
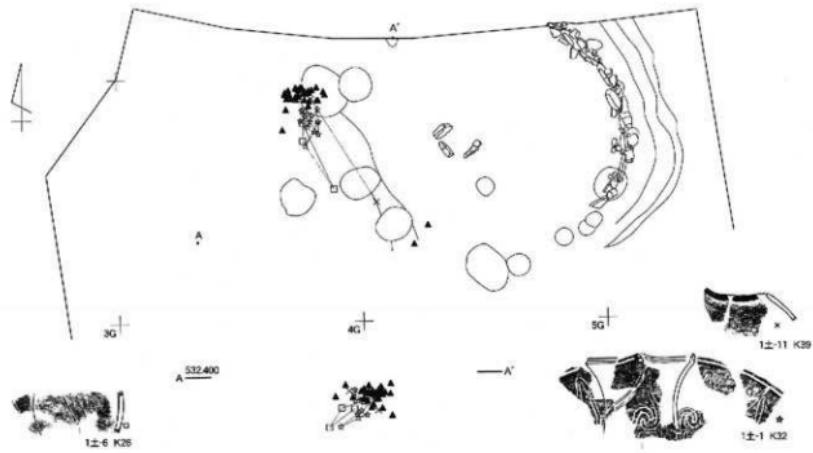




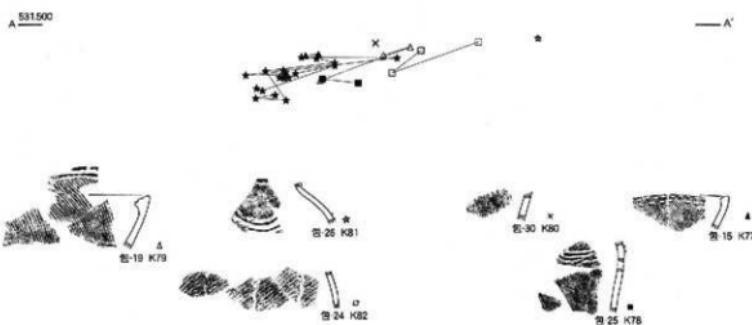
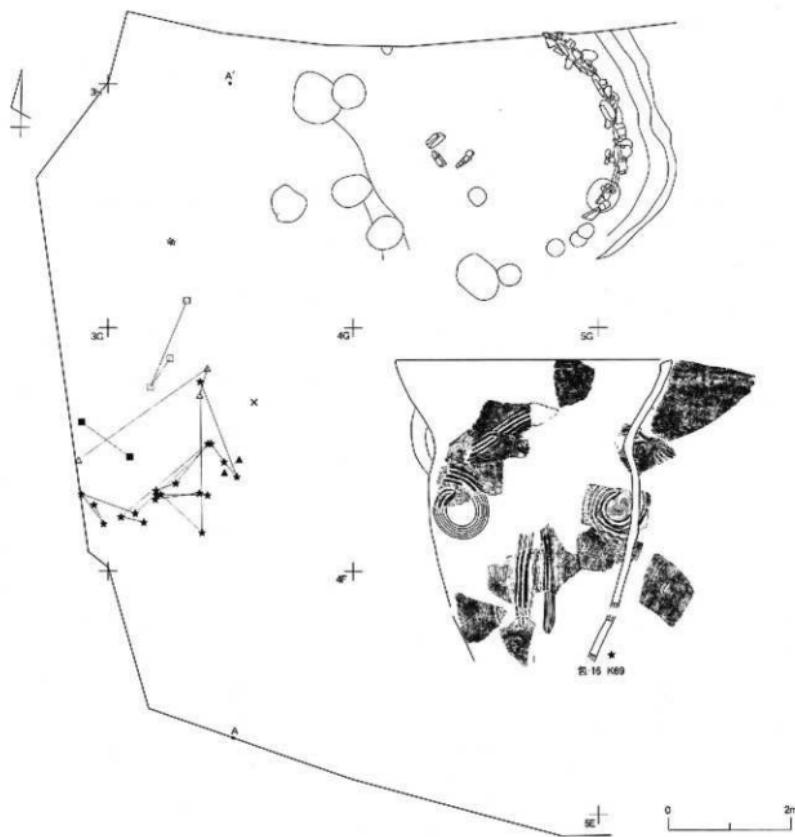
第16図 1号竪穴住居跡遺物分布・接合状況②



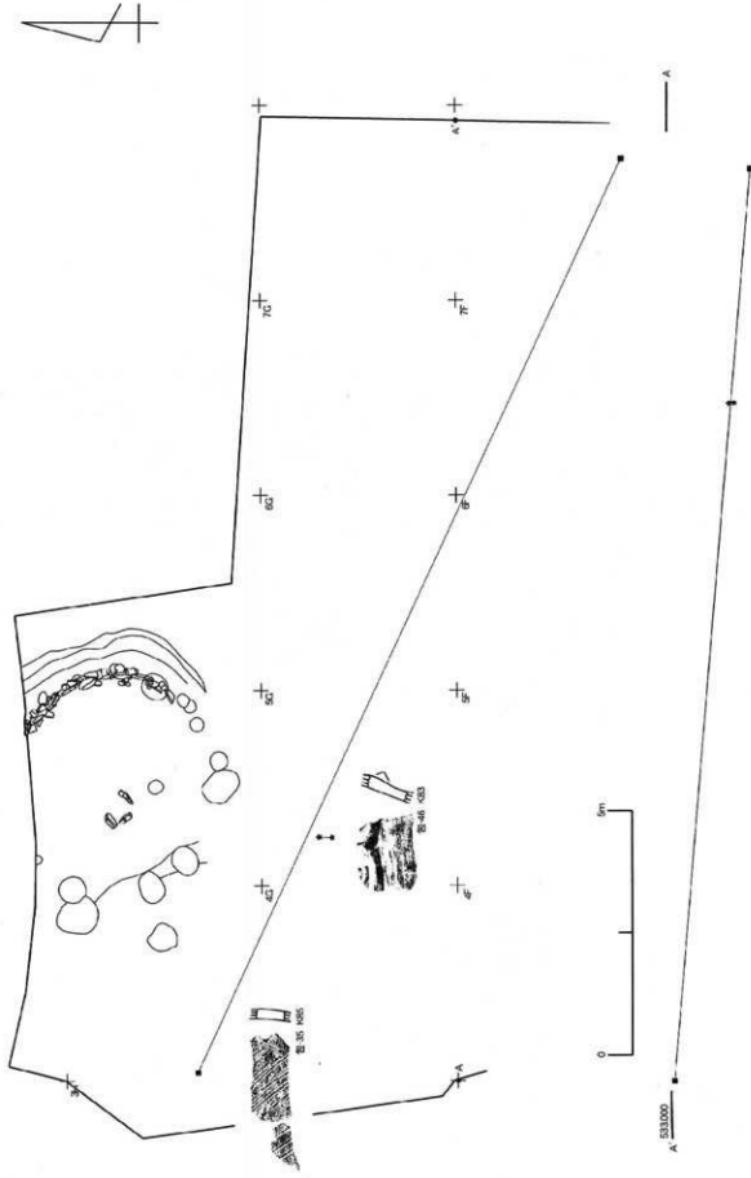
第17図 1号堅穴住居跡遺物分布・接合状況③



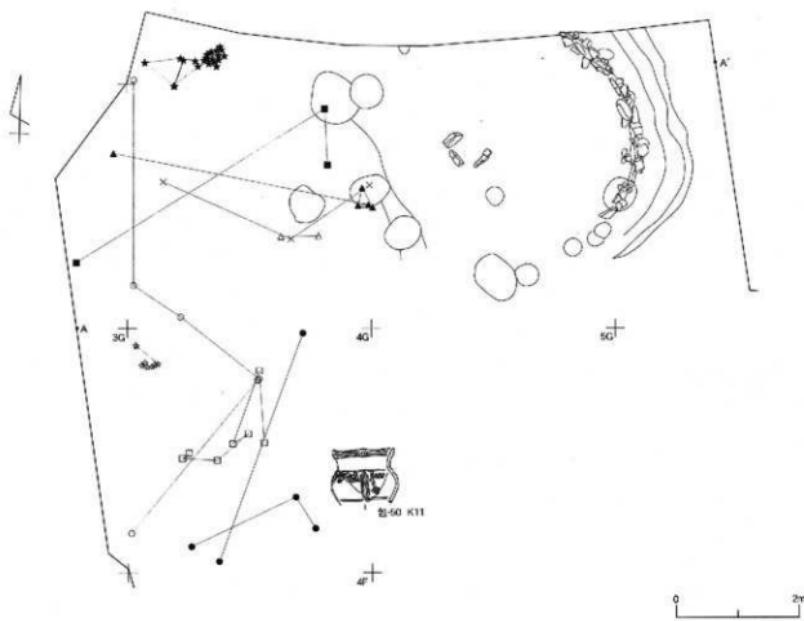
第18図 1号土坑遺物分布・接合状況



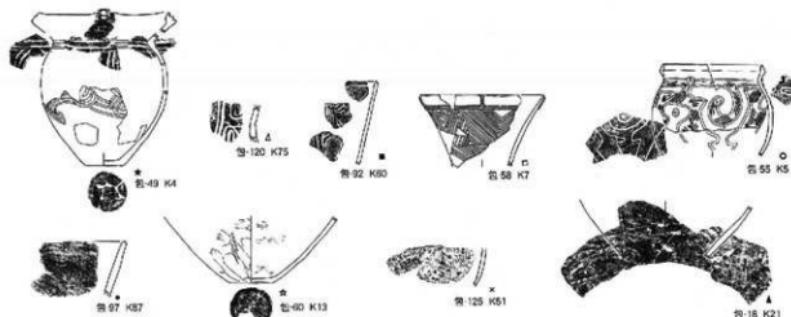
第19図 曾利式土器分布・接合状況①



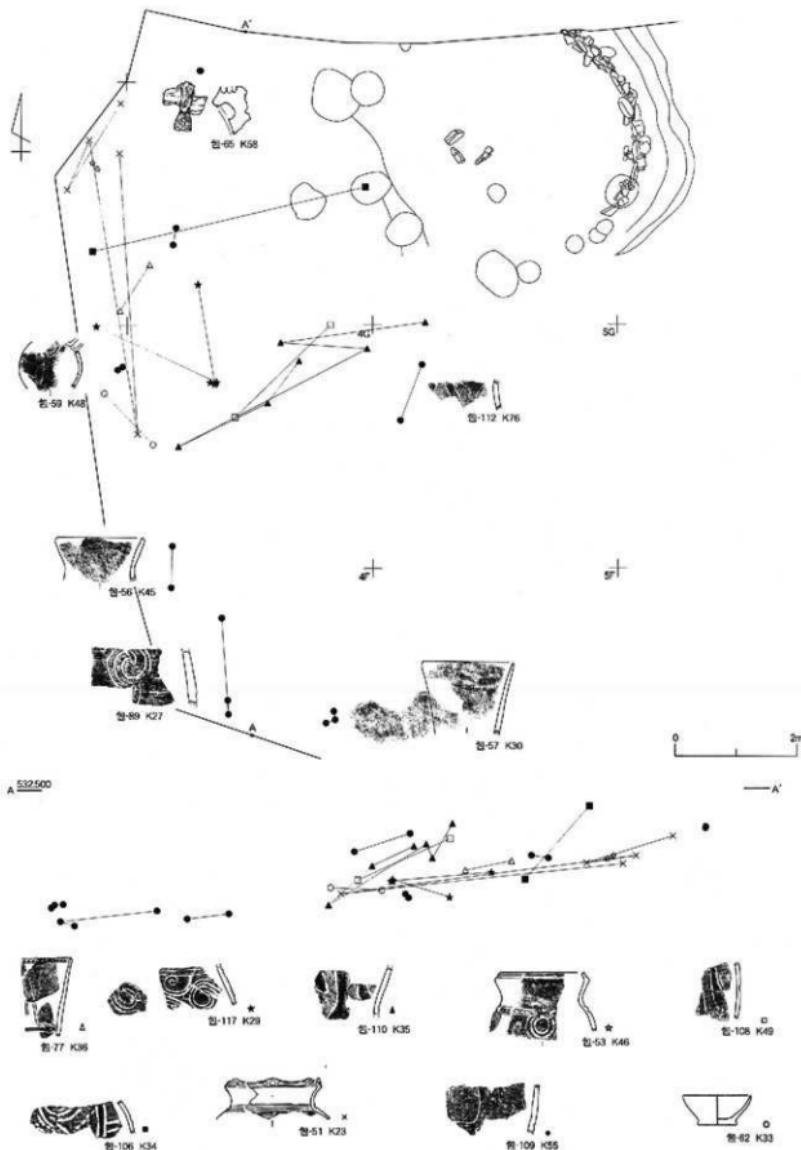
第20圖 曾利式土器分布・接合狀況②



A 532500 — A'



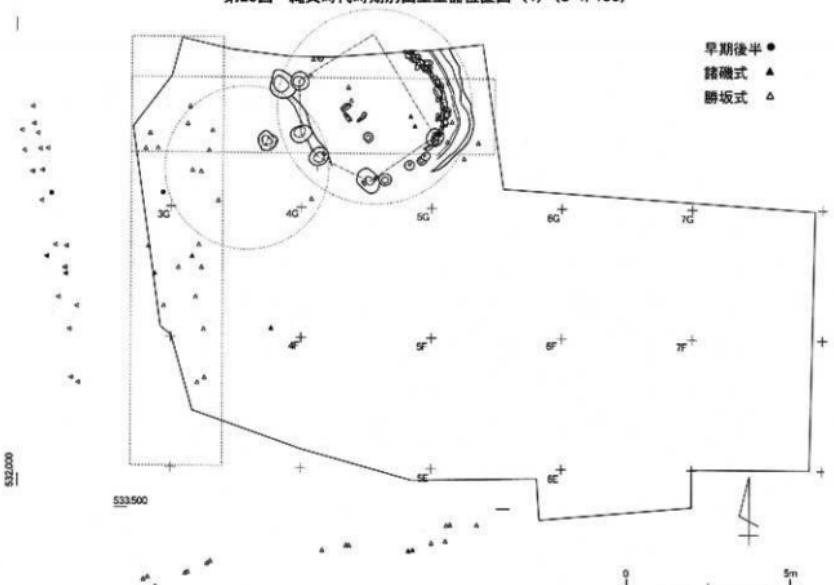
第21図 堀之内式土器分布・接合状況①



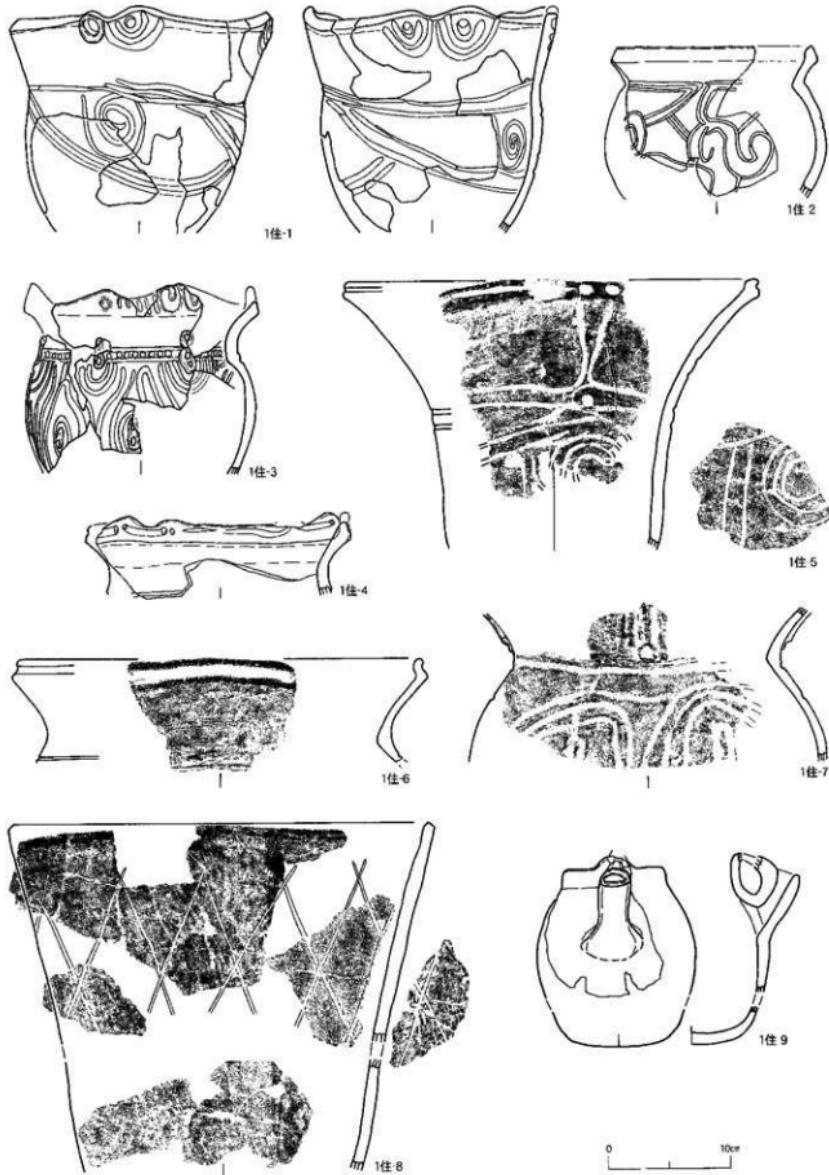
第22圖 煙之內式土器分布・接合状況②



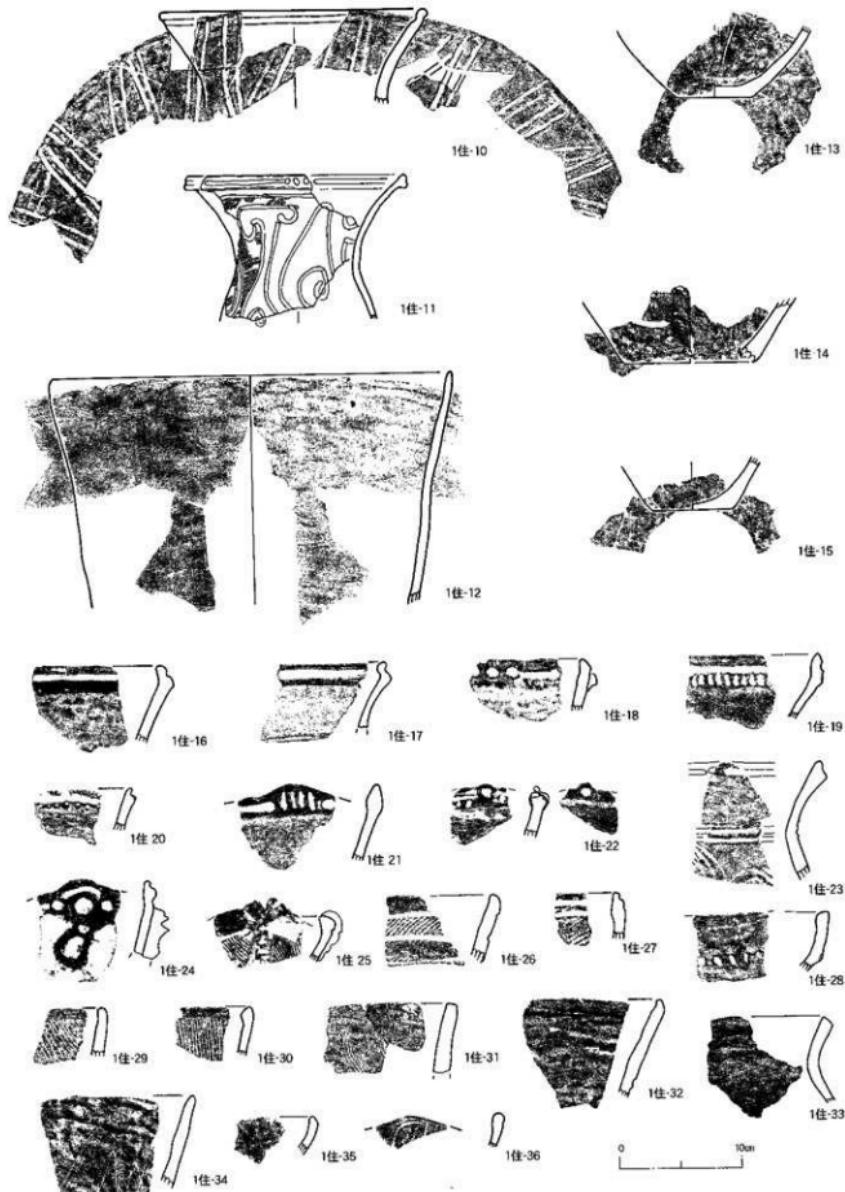
第23図 縄文時代時期別出土土器位置図（1）(S=1/150)



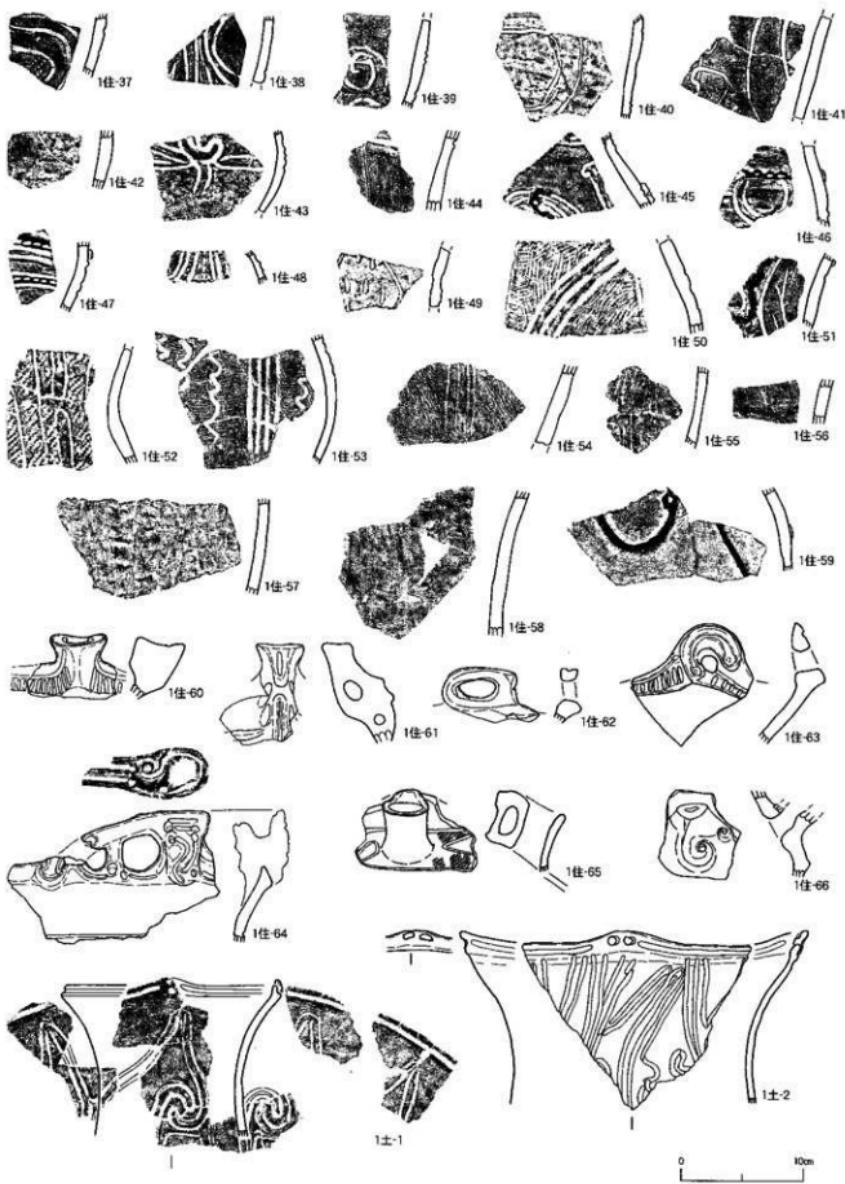
第24図 縄文時代時期別出土土器位置図（2）(S=1/150)



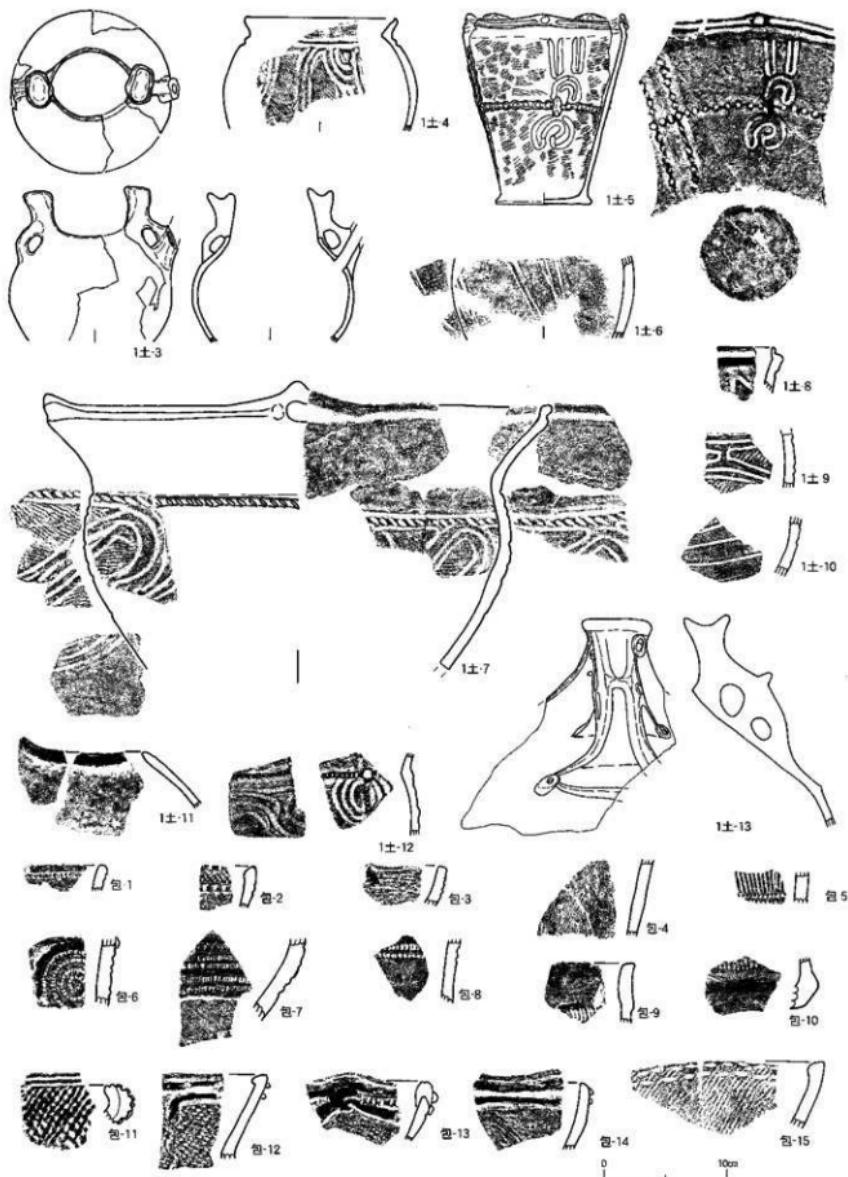
第25図 1号竪穴住居跡 出土土器 (1) (S=1/4)



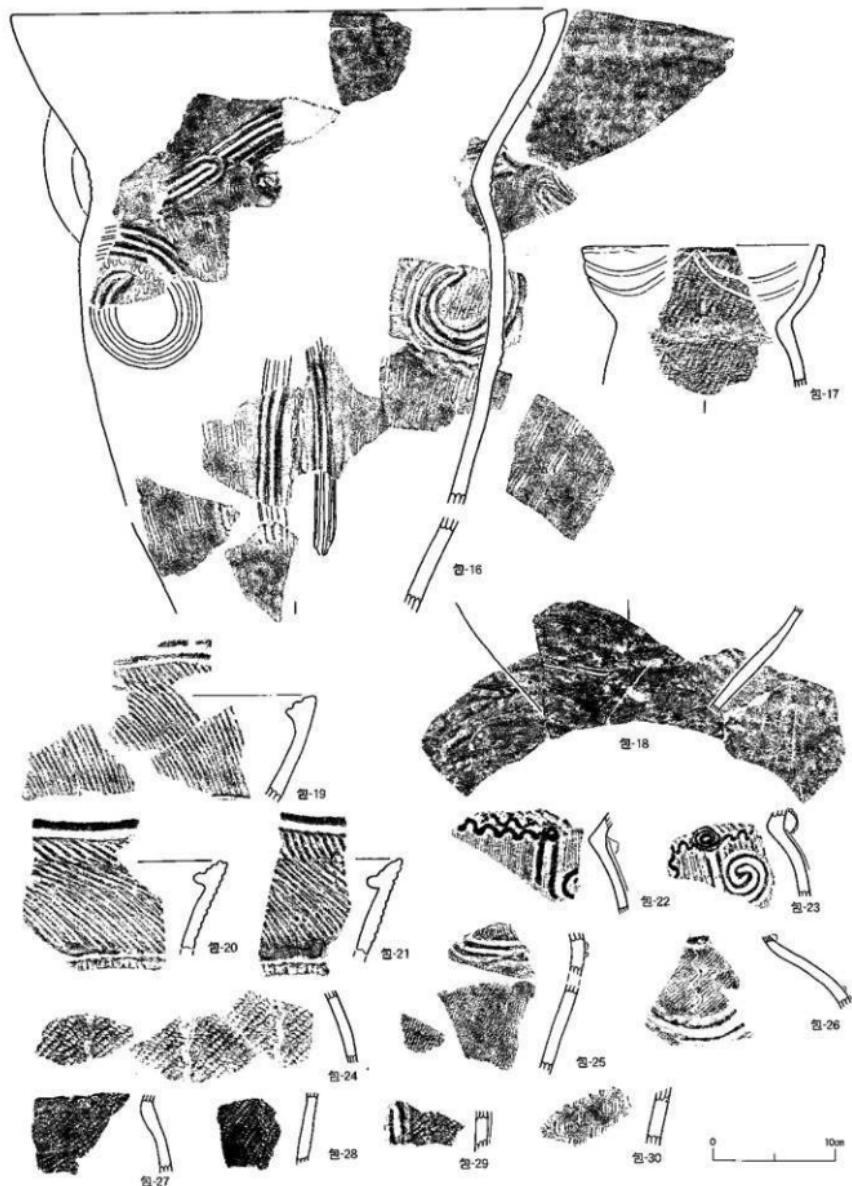
第26図 1号竪穴住居跡 出土土器 (2) (S=1/4)



第27図 1号竖穴住居跡 (3)・1号土坑出土土器 (1) (S=1/4)



第28図 1号土坑出土土器 (2)・包含層出土土器 (1) (S=1/4)



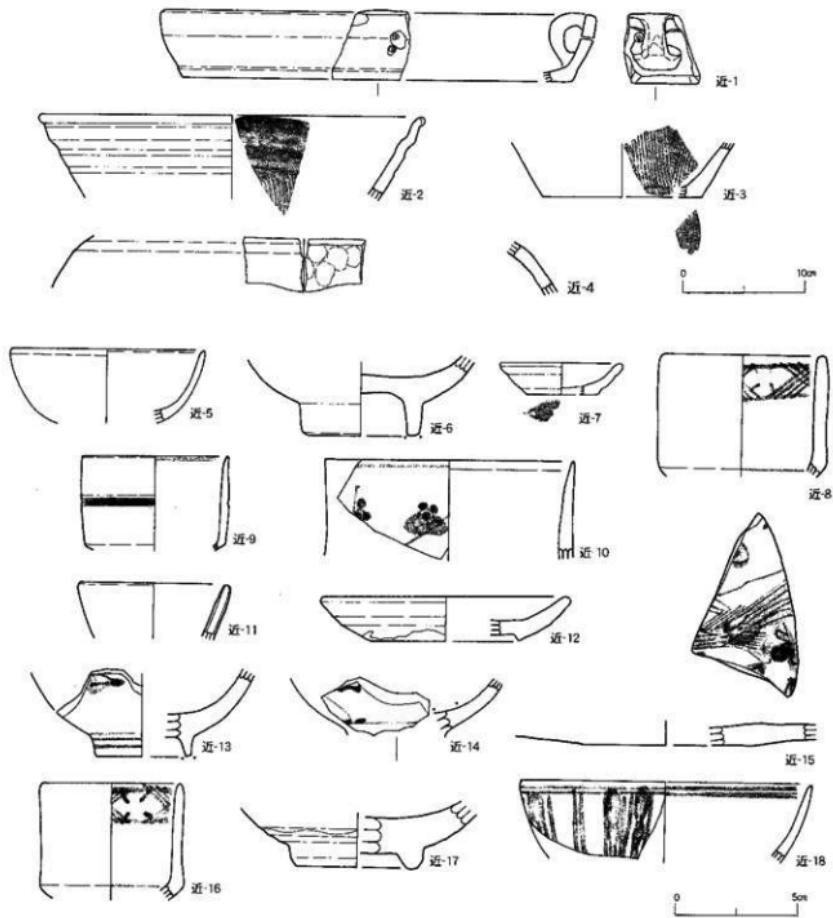
第29図 包含層出土土器 (2) (S=1/4)



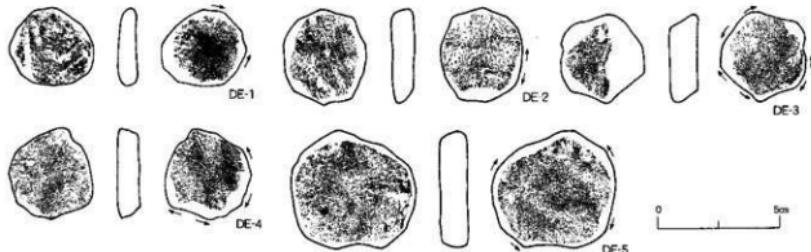
第30図 包含層出土土器 (3) (S=1/4)



第31図 包含層出土土器 (4) (S=1/4)



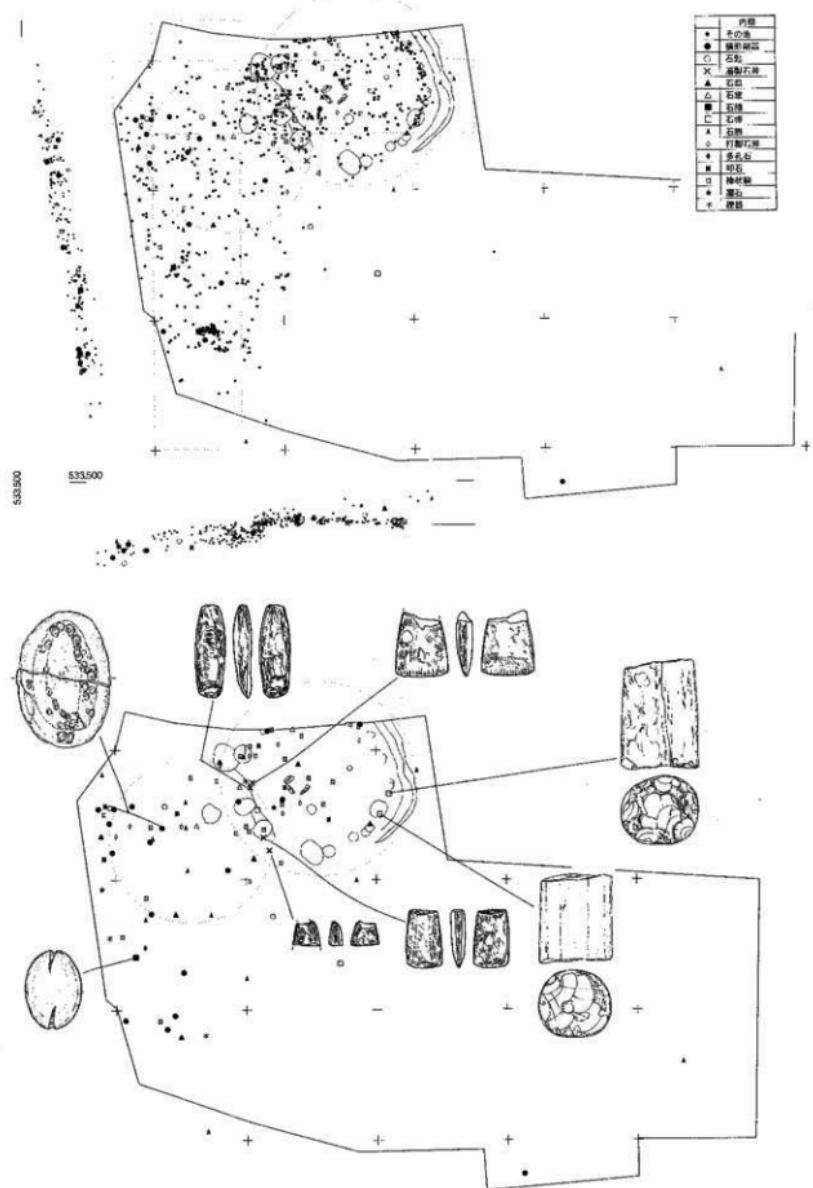
第32図 出土近世土器 (S=1/4)・陶磁器 (S=1/2)



第33図 土製品 (1) (S=1/2)



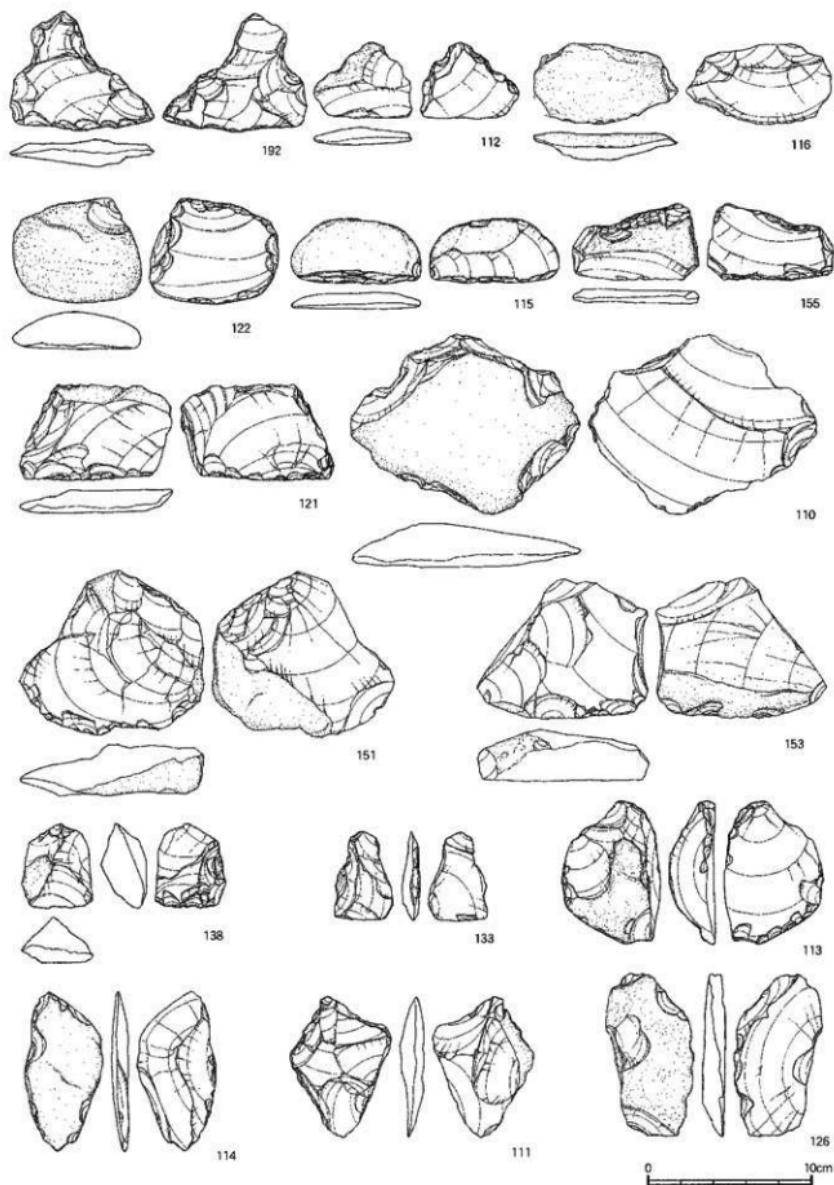
第34図 土製品(2) (S=1/2)



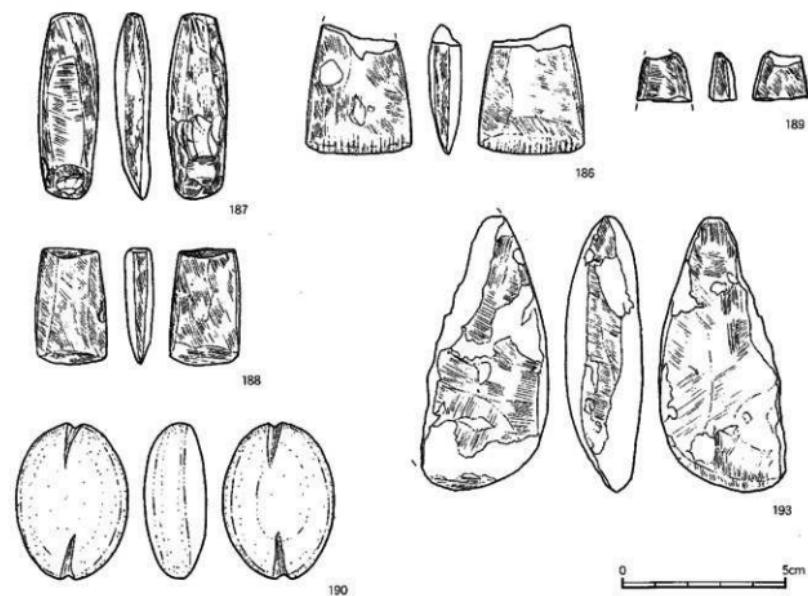
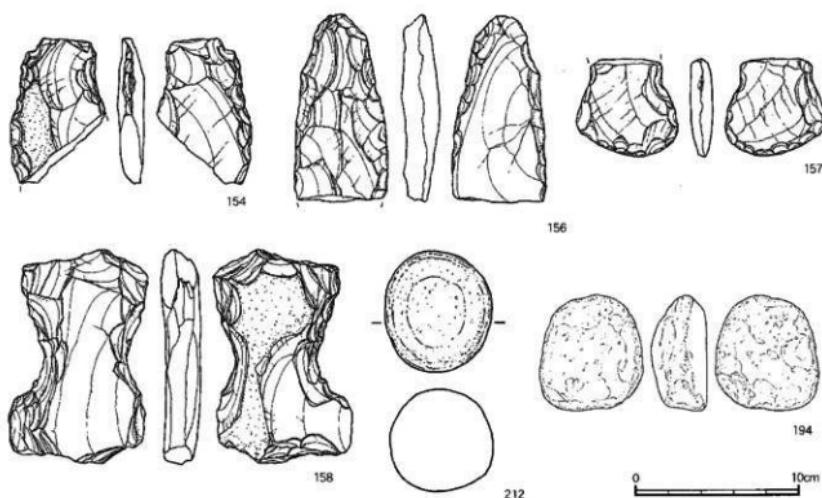
第35図 石器出土位置



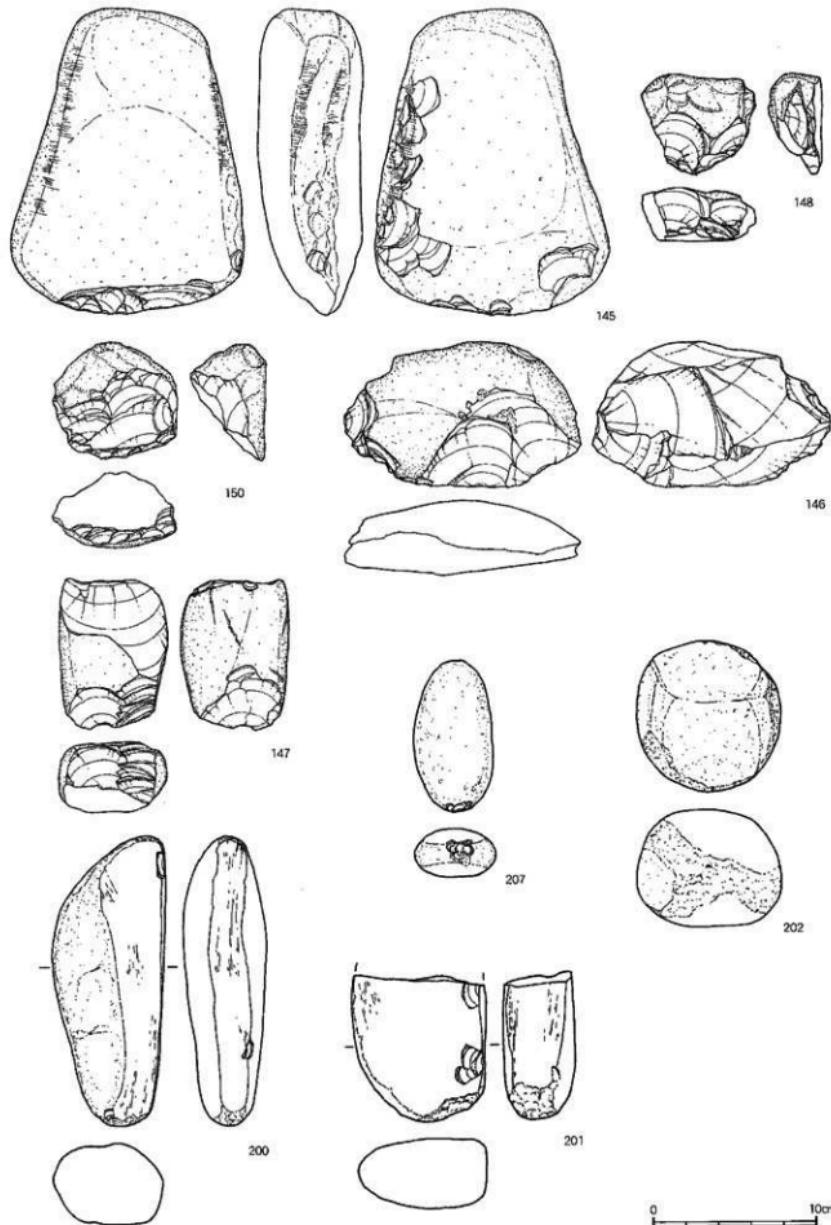
第36図 石鎌・石錐・使用痕剥片・石核・剥片



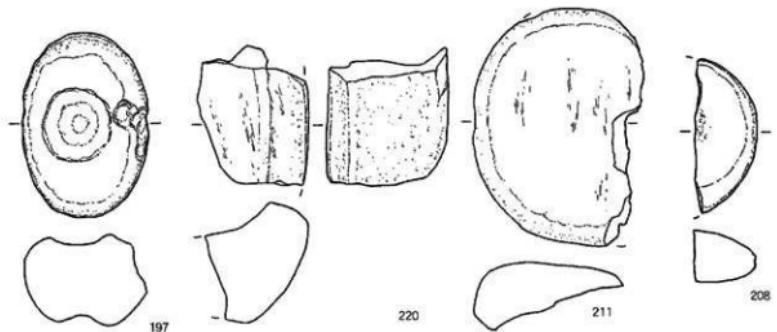
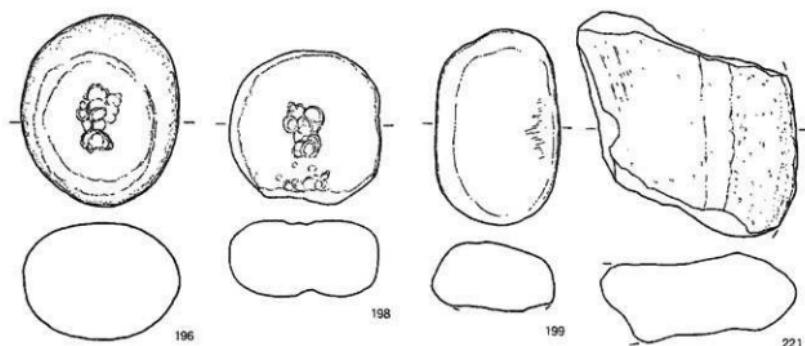
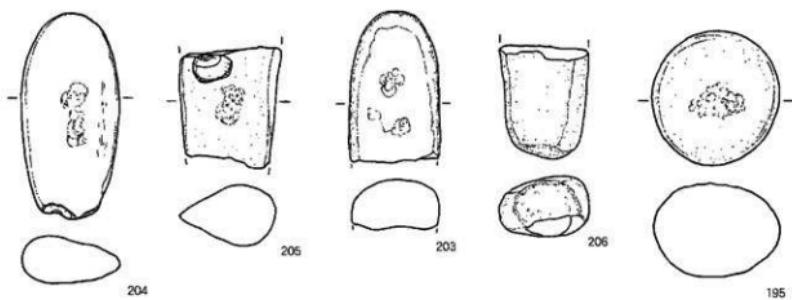
第37図 宿尻遺跡 削器・石匙



第38図 宿尻遺跡 打製石斧・石弾・磨製石斧・石錐

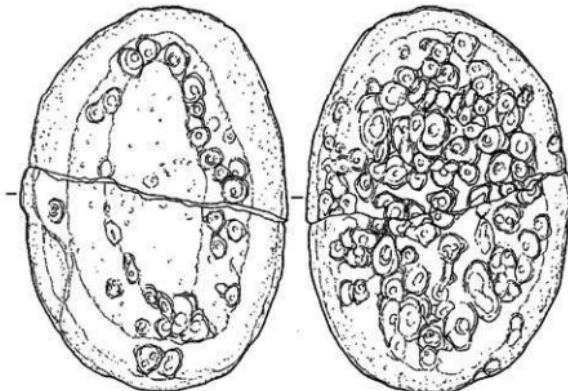


第39図 宿尻遺跡 標器・敲石・特殊磨石

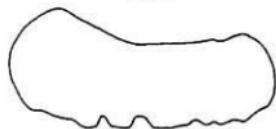


0 10cm

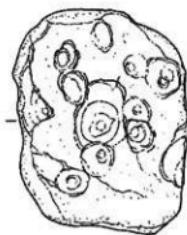
第40図 宿尻遺跡 磚石・凹石・石皿



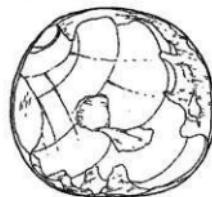
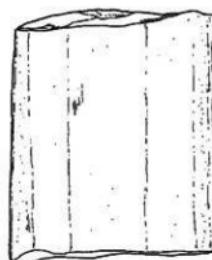
219



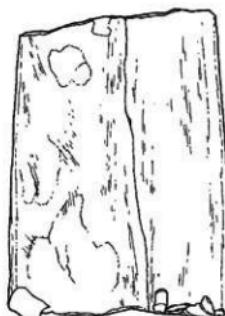
0 10cm



217



213



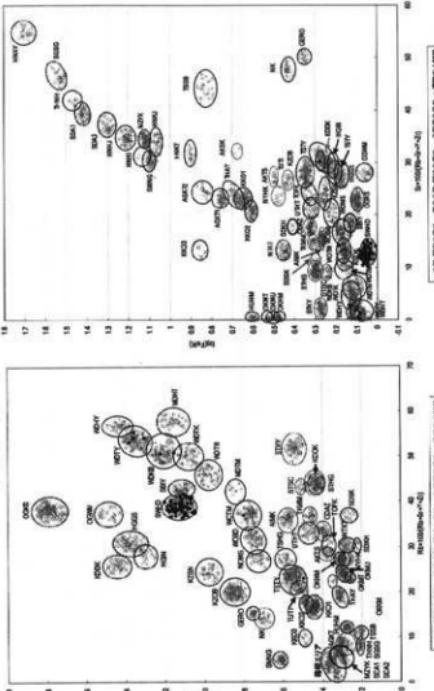
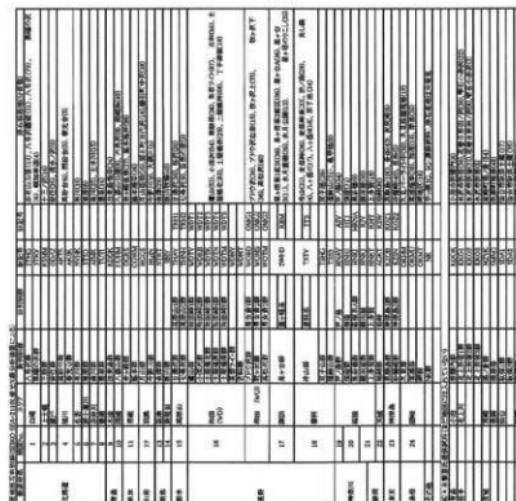
214

0 10cm

第41図 宿尻遺跡 多孔石・石棒

第42圖 黑曜石產地推定分析表（皇月明彦氏提出を表を編集）

卷之三



小説・短文の宣傳 / 第九回第一節の意味 / お嬢の運命・お嬢死

出土土器・土製品・陶磁器觀察表①

出取番号	遺物番号	種類	部位	時代	色調(内)	色調(外)	泥土	備考
第25回 1住-1	3G-14-4G-32-60-62-92-117-1	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	黒・白・赤色粒子	K-3
第25回 1住-2	4H-36-75-82-90	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	黒・白・赤色粒子	K-10
第25回 1住-3	4G-44-46-80-269-307-427-428-129-36-162	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	灰黄褐色	褐色	白色粒子	K-2
第25回 1住-4	3H-460-4G-259-583-611	深鉢形	口縁部	堀之内	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤色粒子	K-18
第25回 1住-5	4G-243-286-11-292-246-3-48-247-18-294-190	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	に赤い褐色	褐色	乳白・透明・金色・黒光・赤色粒子	K-20
第25回 1住-6	4G-301	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白色粒子	
第25回 1住-7	3G-590-4G-371	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	金白・白・黒・赤色粒子	K-22
第25回 1住-8	6-18-45-36-294-253-256-257-4G-507-631-等	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・黒・赤・黄色粒子	K-53
第25回 1住-9	4H-105-154	注口十唇	口縁部~注口・底	堀之内	黄褐色	褐色	白・赤・黑色粒子	K-31
第26回 1住-10	3H-14-334-395-4G-584-20-14-9-57-95-75-101-123-34-285-等	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・金色・黒光・透明白色粒子	K-12
第26回 1住-11	HU-18K-34-66-4H-121-129-4G-一括	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	明赤褐色	褐色	白・黒光・赤色粒子	K-9
第26回 1住-12	4G-88-89-95-567	深鉢形	口縁部~底部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・黒・黒光粒子	K-19
第26回 1住-13	4G-43-480	深鉢形	底部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・白・黒光粒子	K-43
第26回 1住-14	4H-145-149-151	深鉢形	底部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・乳白・透明・赤・黒・黄色粒子	K-52
第26回 1住-15	4G-316-393-短	深鉢形	底部	堀之内	褐色	褐色	白・乳白・透明・色彩粒子	K-70
第26回 1住-16	4G-352	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	褐色	乳白・透明・黒光・赤・黄色粒子	
第26回 1住-17	4G-339	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・乳白・赤色粒子	
第26回 1住-18	4G-527	深鉢形	口縁部	堀之内	赤褐色	褐色	明赤褐色	
第26回 1住-19	5G-13	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・白・金色・黒光・赤色粒子	
第26回 1住-20	4G-13	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・金色・赤色粒子	
第26回 1住-21	4G-93	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・金色・赤色粒子	
第26回 1住-22	4G-135	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・金色・赤色粒子	
第26回 1住-23	4G-248-256	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	褐色	白・赤・黑色粒子	K-37
第26回 1住-24	4G-467	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い褐色	褐色	透明・乳白・黒光・金色・赤色粒子	
第26回 1住-25	JU-15K-12	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	褐色	赤・赤褐色	
第26回 1住-26	4G-313	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い褐色	褐色	乳白・赤・金色・黒光・赤色粒子	
第26回 1住-27	4G-315	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・白・金色・赤色粒子	
第26回 1住-28	4G-209	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・赤・金色・赤色粒子	
第26回 1住-29	4G-228	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・黒光・金色粒子	
第26回 1住-30	4G-483	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・乳白・黒光・赤色粒子	
第26回 1住-31	4H-65-69	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い褐色	褐色	乳白・透明・金色粒子	K-84
第26回 1住-32	3G-24	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	
第26回 1住-33	4G-599	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	褐色	白・黒光粒子	
第26回 1住-34	4H-89	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・赤・金色・黒光粒子	
第26回 1住-35	4G-417	深鉢形	口縁部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・赤・金色粒子	
第26回 1住-36	4G-171	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	褐色	白・透明・黒光粒子	
第27回 1住-33	4G-94-582-606-3F-291	深鉢形	脚部	堀之内	黑褐色	褐色	透明・乳白・黒光・金色粒子	K-24
第27回 1住-37	4G-261	深鉢形	脚部	堀之内	褐色	褐色	に赤い青褐色	
第27回 1住-38	5G-9	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・金色粒子	
第27回 1住-39	10-37-36-381	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・赤・金色・黑光粒子	K-65
第27回 1住-40	3G-61-68	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・赤・透明粒子	K-63
第27回 1住-41	4G-493-494	深鉢形	脚部	堀之内	赤褐色	褐色	白・赤・金色・透明粒子	K-71
第27回 1住-42	4G-520	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・赤・黑色粒子	
第27回 1住-43	4G-236	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	乳白・黒光・透明白色粒子	
第27回 1住-44	4G-223	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	
第27回 1住-45	3H-19	深鉢形	脚部	堀之内	褐赤褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	
第27回 1住-46	4H-164	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・赤・金色・透明白色粒子	
第27回 1住-47	4G-10-102	深鉢形	脚部	堀之内	灰黄褐色	褐色	白・透明・黑色粒子	
第27回 1住-48	4G-82	深鉢形	脚部	堀之内	褐色	褐色	白・赤色粒子	
第27回 1住-49	4G-150	深鉢形	脚部	堀之内	褐色	褐色	に赤い青褐色	
第27回 1住-50	4G-248	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い褐色	褐色	金色・乳白・赤色粒子	
第27回 1住-51	4G-612	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・金色・赤色粒子	
第27回 1住-52	4G-252-254	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・赤・黑色粒子	K-74
第27回 1住-54	4G-291	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い褐色	褐色	白・赤・黑色粒子	
第27回 1住-55	4G-21-338	深鉢形	脚部	堀之内	褐色	褐色	乳白・透明・黒光粒子	K-54
第27回 1住-56	4G-384	深鉢形	脚部	堀之内	に赤い青褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	

出土土器・土製品・陶磁器観察表②

出土地番号	遺物番号	種類	部位	時代	色目(内)	色目(外)	加工	混合No
第27回 1住-57	4G-66-119	深鉢形	腹部	縄文	に赤い褐色	褐色	白・乳白・透明・金色粒子	K-7 3
第27回 1住-58	4G-380-421・478-489	深鉢形	腹部	縄文	に赤い褐色	褐色	白・黒・水・金色粒子	K-4 4
第27回 1住-59	1G-299-309	口上器	肩部	縄文	黒之内 明黄褐色	黒褐色	黒・乳白・透明・赤色粒子	K-5 6
第27回 1住-60	4H-168	浅鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	-
第27回 1住-61	3E-250-280	口上器	口部	縄文	に赤い褐色	黒褐色	白・黒・赤・黒光粒子	K-2 8
第27回 1住-62	4G-460	浅鉢形	把手	縄文	に赤い褐色	黒褐色	白・黒・赤色粒子	-
第27回 1住-63	4G-426	深鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	褐色	乳白・黒光・赤色粒子	-
第27回 1住-64	4G-541	深鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	褐色	白・黒・乳白・赤・黑光粒子	K-1 7
第27回 1住-65	5G-20	口上器	口部	縄文	に赤い褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	-
第27回 1住-66	4H-76	口上器	口部	縄文	赤褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	-
第27回 1上-1	3G-416-557-559-571-619-621-670-799-802-804-831	深鉢形	口部-肩部	縄文	黒褐色	黒褐色	白・赤・金色・黒光粒子	K-3 2
第27回 1上-2	2G-18・3G-840-848	深鉢形	肩部	縄文	に赤い褐色	黒褐色	白・黒・赤・黒光粒子	K-6
第28回 1上-12	3G-466	深鉢形	肩部	縄文	に赤い褐色	黒褐色	透明・黒光・水・乳白色粒子	K-4 0
第28回 1上-10	3G-843	深鉢形	腹部	縄文	に赤い褐色	褐色	黒・赤色粒子	-
第28回 1上-11	4G-151	深鉢形	口部	縄文	赤褐色	褐色	乳白・赤・黑色粒子	K-3 9
第28回 1上-13	3G-847	深鉢形	把手	縄文	に赤い褐色	赤褐色	白・赤・黒光粒子	K-1 4
第28回 1上-3	3G-659-767-842-892	口上器	把手-肩部	縄文	に赤い褐色	黒褐色	白・赤・赤色粒子	K-1 0
第28回 1上-4	3G-785-1軸	深鉢形	口部-肩部	縄文	暗褐色	暗褐色	赤・白・乳白・黒・赤色粒子	K-4 7
第28回 1上-5	3G-668-689-768-789-1折	深鉢形	口部-底盤	縄文	赤褐色	黒褐色	白・金色・黑色粒子	K-8
第28回 1上-6	3G-624-649-741-783-1軸	深鉢形	肩部	縄文	黒褐色	赤褐色	白・乳白・赤色粒子	K-2 6
第28回 1上-7	3G-125-561-509-470-471-700-708-784-788-789	深鉢形	口部-肩部	縄文	明赤褐色	赤褐色	乳白・透明・黒光・赤色粒子	K-1 6
第28回 1上-8	3G-662	深鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	黒褐色	透明・黒光・赤色粒子	-
第28回 1上-9	3G-468	深鉢形	肩部	縄文	に赤い褐色	褐色	乳白・金色・黒光・水色粒子	-
第28回 1上-10	3F-12	深鉢形	口部	縄文	黒褐色	赤褐色	金色・乳白・黒色粒子	-
第28回 1上-11	3F-322	深鉢形	底盤	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑光・赤色粒子	-
第28回 1上-12	3F-185	深鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	赤褐色	白・赤色粒子	-
第28回 1上-13	3F-261	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・赤色粒子	-
第28回 1上-14	2G-97	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-15	3F-176-274	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黒光・赤色粒子	K-7 7
第28回 1上-16	3F-14	深鉢形	口部	縄文	赤褐色	褐色	金色・白・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-17	2F-43	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-18	JU1SK-5・6・8	深鉢形	肩部	縄文	浅黃褐色	黒褐色	白・乳白・赤色・赤色粒子	-
第28回 1上-19	4F-1軸	深鉢形	肩部	縄文	に赤い褐色	赤褐色	白・金色・赤色粒子	-
第28回 1上-20	4G-122	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・赤色粒子	-
第28回 1上-21	3F-261	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・透明粒子	-
第28回 1上-22	2G-97	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色・赤色粒子	-
第28回 1上-23	3F-176	深鉢形	底盤	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色・赤色粒子	-
第28回 1上-24	3F-8	深鉢形	口部	縄文	赤褐色	赤褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-25	3F-550	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-26	3G-272-312-327-471-335-337-	深鉢形	口部	縄文	に赤い褐色	赤褐色	白・黒・赤色粒子	-
第28回 1上-27	3G-1-391-392-393-473-142-343-27-0-216-314-399-2K-54-38-67	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色・赤色粒子	K-6 9
第28回 1上-28	3G-316	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-29	3G-27-3G-292-379-461-75-1	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・黒光・赤色粒子	K-2 1
第28回 1上-30	3G-1-25-15-2G-166-228	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色・赤色粒子	K-7 9
第28回 1上-31	4E-1軸	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・黒・透明粒子	-
第28回 1上-32	3G-513	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-33	2F-56	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・赤色粒子	-
第28回 1上-34	3H-65	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・赤色粒子	-
第28回 1上-35	3G-324-3F-215-397	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・黒光・赤色粒子	K-6 2
第28回 1上-36	2F-25-16.7-3F-112-4F-35	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色粒子	K-7 8
第28回 1上-37	3G-293-264	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色・赤色粒子	K-6 1
第28回 1上-38	3F-167	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-39	3F-399	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-40	3G-100	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・透明粒子	-
第28回 1上-41	3F-194	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・透明粒子	-
第28回 1上-42	3F-102	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・黑色粒子	-
第28回 1上-43	3H-99	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・黒・赤色粒子	-
第28回 1上-44	4H-61	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・透明粒子	-
第28回 1上-45	3K-279	深鉢形	口部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・透明粒子	-
第28回 1上-46	3G-287-7E-15	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色粒子	K-8 5
第28回 1上-47	4G-354	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	-
第28回 1上-48	5G-22	深鉢形	肩部	縄文	暗褐色	赤褐色	白・乳白・黑色粒子	-

出土器・土製品・陶磁器觀察表③

器皿番号	遺物番号	種類	部位	時代	色調(内)	色調(外)	對十	備考
第30回	包-38	3F-104	深鉢形	胴部	肩付後半	褐色	にぶい褐色	白・金色・赤・乳白・黒光 粒子
第30回	包-39	2G-79	深鉢形	胴部	肩付後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白・金色・黒色粒子
第30回	包-40	4G-47	深鉢形	胴部	肩付前半	褐色	乳白・金色・赤色粒子	-
第30回	包-41	3F-553	深鉢形	胴部	肩付後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・赤・金色・乳白色 粒子
第30回	包-42	3F-182	深鉢形	口縁部	肩付前末	にぶい褐色	にぶい褐色	白・透明・金色粒子
第30回	包-43	3G-272	深鉢形	口縁部	肩付前末	にぶい褐色	にぶい褐色	白・乳・透明粒子
第30回	包-44	6H-145	深鉢形	口縁部	肩付前末	にぶい褐色	にぶい褐色	白・乳・透明粒子
第30回	包-45	3F-381	深鉢形	口縁部	肩付前末	にぶい褐色	にぶい褐色	白・乳・黑色粒子
第30回	包-46	4F-34・35	深鉢形	胴部	肩付後半	灰青褐色	灰青褐色	白・黑色粒子
第30回	包-47	3F-314	深鉢形	胴部	肩付前末	明褐色	にぶい褐色	乳白・金色・透明粒子
第30回	包-48	2G-60	深鉢形	胴部	肩付前末	明褐色	にぶい褐色	乳白・透明・金色・黑色 粒子
第30回	包-49	3H-2・5・26・29・31・33・35・3 6・37・41・42・43・44・45・46・ 50・51・7B・瓶	深鉢形	口縁部・底部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	黒・白・赤・金色粒子 K-4
第30回	包-50	3F-172・173・432	深鉢形	口縁部・胴部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・金色粒子 K-11
第30回	包-51	2G-4・14・28・3F-249・3G-246・ 2T-46	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい褐色	灰褐色	白・黒・小色粒子 K-23
第30回	包-52	3F-497	深鉢形	口縁部	瓶之内	灰青褐色	灰青褐色	金色・白・黑色粒子
第30回	包-53	2G-23・24	深鉢形	口縁部	瓶之内	明褐色	にぶい褐色	白・黒光・水色粒子 K-46
第30回	包-54	4G-554	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白・透明・黑色粒子
第30回	包-55	2H-29・3G-99・118・3G-329・33 0・3H-74	深鉢形	口縁部・胴部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・赤・黒光粒子 K-5
第30回	包-56	3F-478・瓶-3E-273	深鉢形	口縁部	瓶之内	灰青褐色	黑褐色	金色・黒・白・赤色粒子 K-4・5
第30回	包-57	3E-29・30・31・45	深鉢形	口縁部	瓶之内	明褐色	にぶい褐色	白・銀色粒子 K-30
第30回	包-58	3F-65・100・147・415	深鉢形	口縁部	瓶之内	灰青褐色	灰褐色	口・黒・赤・乳白・黑色粒子 K-7
第30回	包-59	2H-32・3F-352	注口土器	胴部	瓶之内	灰青褐色	灰褐色	金色・白・乳白・黑色粒子 K-4・8
第30回	包-60	3F-210・211・213・214・221・ 341・570	浅鉢形	底部	瓶之内	黒褐色	褐暗赤褐色	白・金色・赤色粒子 K-13
第30回	包-61	3H-238	浅鉢形	把手	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子 -
第30回	包-62	2F-1・3F-88	浅鉢形	口縁部・底部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・黑光・透明・金色 粒子 K-3・3
第30回	包-63	2F-13	浅鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黑・白・金色粒子 -
第30回	包-100	3G-256	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金色・乳白・黑色粒子 -
第30回	包-101	3H-482	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・赤色粒子 -
第30回	包-102	3F-27.1	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	灰青褐色	金色・白・赤色粒子 -
第30回	包-103	3D-441	深鉢形	胴部	瓶之内	浅黃褐色	浅黃褐色	白・乳白・黑色粒子 -
第31回	包-104	3G-567	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい灰褐色	黑褐色	白・金色・赤・乳白色 粒子 -
第31回	包-105	3F-175	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・白・赤色粒子 -
第31回	包-106	2G-66・3G-380・4瓶、4G-45	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金色・乳白・黑色粒子 K-3・4
第31回	包-107	2D-30・3	深鉢形	胴部	瓶之内	灰青褐色	灰褐色	乳白・黑色粒子 -
第31回	包-108	3F-161・505	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	灰青褐色	乳白・白・透明・金色粒子 K-4・9
第31回	包-109	3G-181・251	深鉢形	胴部	瓶之内	明褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黑光・金色 粒子 K-5・5
第31回	包-110	3F-27・117・414・531・554・4 G-999	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白・透・金色粒子 K-3・3
第31回	包-111	3E-126	深鉢形	胴部	瓶之内	鈍灰色	黑褐色	白・黒・赤色粒子 -
第31回	包-112	4F-18・25	深鉢形	胴部	瓶之内	灰褐色	暗褐色	白・孔・乳・黑光粒子 K-7・6
第31回	包-113	3F-552	深鉢形	胴部	瓶之内	黒褐色	灰褐色	白・黒・赤色粒子 -
第31回	包-114	3G-199	深鉢形	胴部	瓶之内	灰褐色	灰褐色	白・赤色粒子 -
第31回	包-115	3F-515	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・金色・赤色粒子 -
第31回	包-116	3G-871	深鉢形	胴部	瓶之内	黒褐色	黑褐色	乳白・透明・金色粒子 -
第31回	包-117	2F-6,2,3F-222・266・267,3G-323	深鉢形	胴部	瓶之内	灰褐色	にぶい褐色	乳白・透明・黑色粒子 K-2・9
第31回	包-118	3G-411	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	灰青褐色	乳白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-119	3F-466	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい褐色	暗褐色	乳白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-120	3G-591・708	深鉢形	胴部	瓶之内	灰褐色	暗褐色	白・赤色粒子 K-7・5
第31回	包-121	3F-320	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい赤褐色	暗褐色	白・赤色粒子 -
第31回	包-122	3F-428	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい灰褐色	灰褐色	白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-123	3G-195	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-124	2F-46	深鉢形	口縁部	瓶之内	灰褐色	黑褐色	白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-125	3G-736・891・900	深鉢形	胴部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・透・透明・黑色粒子 K-5・1
第31回	包-126	3F-321	台付壺	口縁部	古墳	にぶい褐色	にぶい褐色	赤・白・赤色粒子 -
第31回	包-127	3S-37	台付壺	胴部	古墳	褐色	にぶい褐色	白・金色・赤色粒子 -
第31回	包-128	2F-4桥	台付壺	肩部	古墳	黒褐色	褐色	金色・内色粒子 -
第31回	包-129	5H-7	台付壺	古墳	褐色	にぶい褐色	金色・乳白色粒子 -	
第31回	包-130	3H-77	浅鉢形	把手	瓶之内	にぶい黄褐色	翠褐色	白・乳・赤色粒子 -
第31回	包-131	3M-30・47	深鉢形	口縁部	瓶之内	灰褐色	にぶい褐色	白・乳・金色・黒・赤色 粒子 K-5・8
第31回	包-132	2F-6	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	金色・乳白色粒子 -
第31回	包-133	3E-2	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	栗・白・黑色粒子 -
第31回	包-134	3F-257	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黑・赤色粒子 -
第31回	包-135	3G-500	深鉢形	口縁部	瓶之内	にぶい黄褐色	灰褐色	白・乳・赤色粒子 -

出土土器・土製品・陶磁器觀察表④

宿戻遺跡石鏡①

石鏡No.	グリッド	No.	層位	岩種	岩号	成年率	茎子 (mm)	根 (mm)	厚さ (mm)	茎根分合	測定角度	測量の度数	コーン番	西偏角 (°)			
1	3R	32	2b	丹波系	黒曜石	毛忍		20.7	12.0	2.7	SHP	ヨーン	1東偏	2	丸縫の劣る吸水能力の弱いソフトバー。斜面剥離は少。		
2	3G	504	3d	丹波系	黒曜石	毛忍		27.3	14.5	4.1	HDP	ヨーン	2東偏	2	丸縫を含む多く性す。芯部圓錐形。		
3	5G	41	2e	丹波系	黒曜石	丹波久根		25.9	18.4	3.7	茎+台	SHP	曲げ	不偏	2	丸縫が劣る吸水能力の弱いソフトバー。斜面剥離は少。	
4	3P	205	2a	丹波系	黒曜石	土忍		13.3	11.1	2.6	M+台	SHP	ヨーン	2東偏	2	丸縫を含む多く性す。芯部圓錐形。	
5	3G	418	2c	丹波系	黒曜石	北浦久根		18.2	10.2	3.3	茎+台	SHP	直立	不偏	2	丸縫の劣る吸水能力の弱いソフトバー。斜面剥離は少。	
6	3G	25	2c	丹波系	黒曜石	切形		13.9	11.6	2.5	茎+台	SHP	ヨーン	17	1. 斧削仕上。		
7	4P	37	2a	丹波系	黒曜石	竹箆久根		22.9	14.0	4.0	M+台	sHDP	ヨーン	2	37	2	丸縫の劣る吸水能力の弱いソフトバー。斜面剥離は少。
8	3G	620	2c	丹波系	黒曜石	土忍		14.0	9.5	3.5	M+台	sHDP	ヨーン	240°	2	丸縫を含む多く性す。芯部圓錐形。	
9	3G	195	2a	丹波系	黒曜石	毛忍		18.7	17.4	1.0	茎+台	sHDP	ヨーン・直立	240°	3	丸縫を含む多く性す。芯部圓錐形。	
10	7G	1	2b	丹波系	石墨	定期		18.5	11.8	2.6	茎+台	sHDP	ヨーン	2本偏	2	表面に裏打ち材を残す。	
11	3G	541	2c	丹波系	黒曜石	北浦久根		17.1	15.2	3.5	茎+台	sHDP	ヨーン	240°	2	表面とともに伴う剥離面が加えてある。	
12	3P	45	2c	丹波系	黒曜石	巣窟のみ理		13.6	9.5	2.6	M+台	sHDP	ヨーン	2東偏	2	丸縫を含む多く性す。	
13	3G	85	2a	丹波系	黒曜石	定期		11.8	14.5	3.4	茎+台	通常	通常	通常	2	丸縫を含む多く性す。	
14	3G	-16	2a	丹波系	石墨	毛忍		16.2	16.6	4.8	D+台	SHP	ヨーン	1人直	3	丸縫を含む多く性す。	

宿戻遺跡石鏡②

石鏡No.	グリッド	No.	層位	岩種	岩材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	風化地分析	加工・削面	基材・石 材の形態	石材・石 材の技術	原 見
25	3P	107	2a	小笠原	黒曜石	23.1	13.2	5.3	3.1	茎ヶ台	HD	小切	小切	端正な斜削片。剥離面打開。芯底部モリシューなし。
27	3H	-15	2b	石墨	黒曜石	16.4	9.9	5.1	1.0未	茎+台	なし	小斜片	(HD)	丸削仕上。両端辺に同様の使用痕あり。
30	4G	1	2a	石墨	加藤(4)	28.7	11	8.5	2.1	茎ヶ台	HP	二重巻石器	不明	刃部の先端斜削片は摩耗が激しい。
31	4G	15	2c	石墨	黒曜石	27.0	12.7	7.0	1.4	茎+台	HP	両巻石器	不明	
33	3H	-15	2c	石墨	黒曜石	13.6	13.5	6.0	0.9	茎+台	HP	両側削片	HD	
35	3P	106	2c	小笠原・柳谷石	黒曜石	13.6	11.9	4.0	1.0未	茎+台	HD	両側削片	HD	
40	3G	683	2a	使用痕剥片	黒曜石	24.7	17.5	7.1	1.9	茎+台	なし	両側削片	HD	
41	3G	704	2a	丹波本部品	黒曜石	23.0	13.4	4.1	1.1	茎+台	HD	両側削片	HD	
42	3G	729	2d	使用痕剥片	黒曜石	16.6	19.8	4.1	1.1	茎ヶ台	なし	両側削片	HD	
43	3G	726	2b	石墨	黒曜石	18.0	11.9	8.0	1.1	茎ヶ台	HP	両側削片	HD	
44	4H	10	2c	石墨	黒曜石	30.4	23.9	9.0	4.4	茎+台	なし	仄片	HD	消炎の尖った刃溝を刃部にしている。刃部の削痕は空用溝。
45	4P	14	2a	楔形石器	黒曜石	27.8	31.9	6.1	3.5	茎+台	HP	仄片	HD	楔形石器。つまみは反方向の握縄で形成。
46	2G	111	—	石墨	加藤(4)	25.6	15.0	8.9	1.2	茎+台	HP	仄片	HD	端面型石器
47	1±SK	76	—	使用痕剥片	黒曜石	25.9	25.4	6.2	1.6	茎+台	なし	仄片	HD	
49	4G	276	—	使用痕剥片	黒曜石	24.0	18.1	10.2	2.5	茎+台	なし	仄片	HD	
50	4G	40	2c	凹巻石器	黒曜石	22.8	15.7	9.5	2.1	茎+台	HD	小斜面	誤差なし	
51	4G	6	2c	剥片	黒曜石	17.0	18.1	4.7	0.7	茎+台	HD	小切	誤差なし	
52	4G	124	2b	石墨骨材	黒曜石(4)	38.1	20.0	12.1	7.5	茎+台	HD	(表角鋸)	HD	
54	5H	23	2c	使用痕剥片	黒曜石	39.3	21.8	8.5	4	茎+台	HD			
60	4P	13	2c	石墨	黒曜石(4)	15.0	29.7	11.1	3.5	茎+台	HD	小斜面	小明	
63	3G	832	2d	石墨	黒曜石	39.4	38.3	16.7	2.3	茎+台	HD	斜面なし	誤差なし	
64	3G	820	2d	石墨骨材	黒曜石	20.7	17.1	10.3	3.3	茎+台	HD	小斜面	HD	
65	3G	688	2d	石墨骨材	黒曜石	12.9	9.9	4.4	1.0未	茎+台	HD	小斜面横切面	HD	
67	3G	638	2d	石墨骨材	黒曜石	16.5	18.0	6.7	1.3	茎+台	HD	小斜面横切面	HD	
70	1±伊	15	—	石墨	黒曜石	21.3	13.8	2.8	1.0未	茎+台	HP	横切面	HD	
71	2±伊	15	—	石墨	黒曜石	24.9	16.2	6.6	0.7	茎+台	HP	斜面角度	小斜片	
72	—	—	—	剥片	黒曜石	20.0	11.3	4.0	1.0未	茎+台	小刀刃	刃部	小刀刃	

打製石斧・粗製剥石器・礫器Aランク

石器名	アーチ. 順	No.	層位	岩種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	刃長(mm)	加工・剥離技術	主材・石核形態	基材・石核の技術	所見
120	M21	—	—	粗製剥石器	安山岩	106.3	138.3	26.4	HD	HD	剥片	該当なし	
121	3G	166	Br	粗製剥石器	安山岩	88.3	62.3	15.0	HD	HD	剥片	該当なし	
122	4H	102	Br	粗製剥石器	安山岩	46.1	59.5	11.7	HD	HD	剥片	該当なし	
123	3F	36	Br	粗製剥石器	安山岩	87.3	60.1	28.1	HD	HD	剥片	該当なし	
124	SD	2	Br	粗製剥石器	安山岩	96.5	47.7	10.7	HD	HD	剥片	該当なし	
125	3G	758	Br	粗製剥石器	安山岩	39.4	78.3	10.2	HD	HD	扁平錐	該当なし	
126	3G	133	Br	粗製剥石器	安山岩	48.8	87.5	17.3	HD	HD	剥片	該当なし	
127	不明	不明	Br	剥離骨器	霞洞	58.1	63.3	14.6	HD	HD	剥片	該当なし	
128	3G	217	Br	粗製剥石器	安山岩	63.7	71.9	22.3	HD	HD	剥片	該當なし	
129	3G	308	Br	粗製剥石器	安山岩	97.6	53.6	13.0	HD	HD	剥片	該當なし	
133	3E	259	Br	粗製剥石器	安山岩	54.4	35.6	11.2	HD	HD	剥片	該當なし	
136	4G	450	Br	剥離	霞洞	51.2	43.1	27.6	HD	HD	剥片	該當なし	
145	1W	33	記述なし	細器	霞洞	187.1	144.7	64.6	HD	HD	剥	該当なし	
146	M25	—	—	剥離	安山岩	89.2	145.5	45.9	HD	HD	剥	該當なし	
147	3G	866	Br	剥離	小原	92.4	66.7	43.3	HD	UD	剥	該當なし	
148	3R	306	Br	剥離	霞洞	61.9	69.6	32.9	HD	HD	剥	該當なし	
150	—	215	Br	剥離	礁岩	71.3	76.0	46.6	HD	HD	剥	該當なし	
151	3E	7	Br	粗製剥石器	霞洞骨	99.2	111.0	31.3	HD	HD	剥	該當なし	
153	2G	110	—	粗製剥石器	霞洞砂岩	83.8	102.5	31.1	HD	HD	剥	該當なし	万能製作途中
154	—	60	Br	打製石斧	砂岩	89.5	58.4	16.9	大丸	HD	剥片	小原	
155	AO	295	Br	粗製剥石器	安山岩	46.2	76.5	9.4	HD	HD	剥片	不明	
156	3G	307	Br	打製石斧	ホルンフェルス	118.0	57.9	24.1	大丸	HD	剥片	小原	
157	4H	99	Br	打製石斧	ホルンフェルス	60.6	62.1	13.7	大丸	HD	剥片	不明	
158	3G	172	Br	打製石斧	安山岩	131.6	85.3	24.7	大丸	HD	剥片	小原	
162	3G	376	Br	剥離骨器	ホルンフェルス	71.9	87.4	16.5	HD	HD	剥片	不明	

磨製石斧Aランク

石器名	アーチ. 順	No.	層位	岩種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	刃長(mm)	加工・剥離技術	石材・石核形態	主材・刃部の状態	所見
186	4G	543	Br	剥離石斧	枕状玄武岩	40.0	32.7	10.1	16.6	剥離	小原	不明	万能に適する万能斧
187	4G	593	Br	剥離石斧	安山質灰岩	37.2	14.5	10.8	18.2	剥離	不明	小原	
188	4G	52	Br	剥離石斧	霞洞骨	35.6	21.7	8.8	10.5	剥離	不明	不明	
189	4G	598	Br	剥離石斧	霞洞砂岩	18.2	17.2	8.7	2.6	剥離	不明	小原	
193	M23	—	—	磨製石斧	枕状玄武岩	84.2	39.1	23.8	95.5	磨打・研磨	小原	不明	貴重な教科

礫器Aランク

石器名	アーチ. 順	No.	層位	岩種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	刃長(mm)	加工・剥離技術	石材・石核形態	主材・刃部の状態	所見
190	3P	377	Br	粗製石斧	霞洞	48.2	34.2	19.0	無	円錐	重さ45.6g		
194	1W	47	—	粗製石斧	霞洞	78.5	70.0	62.8	適用外	剥			
195	3G	171	Br	粗製石斧	安山岩	84.0	78.9	39.0	なし	塊状	表面に敲打痕		
196	2P	68	Br	砂岩・霞洞	安山岩	118.7	97.6	75.2	なし	塊状	表面に凹凸形の凹板があり、表面間に敲打痕		
197	2G	106	—	記述なし	砂岩・門石	112.6	77.2	38.6	無	塊状	表面に敲打痕、側面(裏面)に削り(糸化のため不規則)		
198	4H	—	Ha-1	砂岩・霞洞	安山岩	94.0	93.2	47.2	なし	塊状	表面に敲打痕、裏面(糸化のため不規則)		
199	4G	89	Br	砂岩	霞洞	121.4	76.2	45.0	なし	塊状	裏面は欠陥		
200	5P	—	Ha-1	特殊な石	砂岩	178.3	71.4	52.7	なし	北角錐	側面に敲打痕		
201	1W	72	—	特殊な石	安山岩	90.7	82.5	44.4	なし	北角錐	側面に敲打痕		
202	2G	171	Br	特殊な石	花崗岩	93.5	89.2	73.0	なし	圓錐	側面に敲打痕		
203	3G	207	Br	粗石	安山岩	91.8	56.1	35.5	なし	特殊状	裏面は欠陥		
204	15-SK37	—	—	磨石・砕石	砂岩	126.5	60.5	30.3	なし	長桿円錐	表面に敲打痕		
205	4G	282	Br	磨石	沙岩	74.4	61.0	38.4	なし	長棒円錐	表面に敲打痕		
206	4G	439	Br	磨石	砂岩	69.5	55.1	37.2	なし	長棒円錐	表面に敲打痕		
207	5F	—	Ha-1	磨石	安山岩	93.1	49.6	29.6	なし	長棒円錐	表面に敲打痕		
208	M26	—	—	磨石	霞洞	95.4	38.2	33.4	なし	棒円錐	表面に敲打・長軸・短軸に側面に		
211	3G	215	Br	小形石器	安山岩	146.5	109.8	43.2	なし	円錐	裏面に斜面		
212	2F	3	—	打製石斧	安山岩	74.1	65.8	64.9	なし	球状			
213	1W	2	—	石斧	安山岩	156.0	126.6	114.8	敲打・研磨	小原	体側断片、雖然、破壊的に磨耗あり		
214	1W	9	—	石斧	安山岩	190.3	135.3	118.5	敲打・研磨	不明	体側断片、雖然、破壊的に磨耗あり		
217	2P	365	Br	多孔石	安山岩	140.0	108.0	78.0	敲打	天原	天原式に凹溝		
219	2G	134	—	石器・多孔石	安山岩	320.1	220.8	100.7	敲打	不明	表面が石三で底面が多孔石、複合資料		
220	3F	444	Br	石頭	安山岩	86.0	69.1	75.4	敲打・研磨	不明	图片資料、所あり、甚熱		
221	3F	—	Ha-1	石頭	石頭	134.4	132.0	39.7	敲打	不明	图片資料、所あり、甚熱		

剥片石器B・Cランク①

試験番号	工具	形	断面	岩種	石材	原産地分類	重量(g)	加工・剥離技術	墨出し・石板状態	正味・生地の状態	ランク	備考
13 1 PSK	35	小形石器石器	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2	該当なし	小剥片	HxD	B	
14 1 ESK	36	小形石器石器	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	該当なし	小剥片	HxD	B	
15 1 PSK	34		黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	8.4	(HD)	小塊	該当なし	B	
16 1 CSK	33	厚石	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	10.1	該当なし	該当なし	該当なし	B	
17 1 作SK	37	剥片	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	該当なし	不規	HxD	B	
18 1 CSK	79	剥片	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	該当なし	不明	HxD	B	
19 3F	437	hd	青斑石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.7	HxD	小角端	該当なし	B	
20 3F	408	hd	石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.1	HI	小尖端	該当なし	B	小刀器の石核
21 3F	799	hd	石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	8.1	HD	小角端	該当なし	B	
22 3F	575	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.8	該当なし	不明	HI	B	
23 3F	363	hd	可塑剝片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	HxD	不規	不明	B	
24 3F	157	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.5	HD	不規	小角端	C	自然面打削の剥片
25 4G	145	hd	使用痕剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.5	なし	剥片	HxD	B	
26 4H	—	hd	石器未製品	黑曜石	黑曜石	黒曜石	0.5	HP	同側剥片	不明	B	
27 3E	—	hd	石器未製品	黑曜石	黑曜石	黒曜石	0.9	HP	小剥片	HI	B	
28 MD-7	—	—	後削痕剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.2	なし	小剥片	(HD)	B	
29 3F	424	hd	使用痕剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1	なし	(小角端)	GB	B	
30 3G	114	hd	石器未製品	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.3	HxDQ(硬度)	同側剥片	HxD	B	
31 4G	510	hd	使用痕剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	20	なし	剥片	HxD	B	
32 53	176	hd	石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.8	HI	小尖端	該当なし	B	
33 5H	16	hd	小形剥離石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	HxD	小剥片	不明	B	
34 4H	40	hd	使用痕剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.0本	HxD	剥片	小明	B	
35 3H	18	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.4	HD	小所	不明	B	
36 3H	16	hd	同側石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.1	HxD	剥片	小明	B	
37 3G	31	hd	火候石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.9	HxD	小角端	該当なし	B	
38 4G	656	hd	小形剥離石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1	HxD	該当小確	該当なし	B	
39 4G	905	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	0.8	(HD)	不明	不明	B	
40 3G	838	hd	厚片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.2	該当なし	該当なし	該当なし	B	要薄端分析
41 3G	687	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1	HxD	不規	不明	B	
42 3G	653	hd	小形剥離石器	重複石	重複石	重複石	1.4	HxD	剥片	HD	B	
43 3G	442	hd	同側石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.9	HxD	(小角端)	該当なし	B	
44 3G	—	hd	費用低削片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	0.9	HxD	不明	不明	B	
45 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.2	HxD	不明	不明	B	
46 3L	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.5	HD	不規	不明	B	
47 1 作SK	76	—	剥片	共通	共通	共通	2.4	HD	不規	不規	B	傾斜角135°
48 3F	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2	HD	不規	不規	B	剥片角115°
49 3F	—	hd	石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.2	(HD)	小角端	不明	B	
50 3G	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	10.2	HD	(剥片)	不明	B	打削欠損
51 3F	245	hd	小形剥離石器	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.3	なし	小剥片	HxD	C	
52 3G	4	hd	黑曜石	黑曜石	黑曜石	黑曜石	6.2	該当なし	該当なし	該当なし	C	流紋岩の不規格のいる相違な小切跡(340例)
53 4G	648	hd	原石(薄片)	黑曜石	黑曜石	黑曜石	4.6	該当なし	該当なし	該当なし	C	
54 3G	362	hd	黑曜石剥片	黑曜石	黑曜石	黑曜石	2	該当なし	該当なし	該当なし	C	
55 3E	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.3	該当なし	該当なし	該当なし	C	
56 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.4	該当なし	該当なし	該当なし	C	
57 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.5	HD	不規	不明	B	
58 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.1	HD	不規	不明	B	
59 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.2	HD	不規	不明	B	
60 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.3	HD	不規	不明	B	
61 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.4	HD	不規	不明	B	
62 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.5	HD	不規	不明	B	
63 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.6	HD	不規	不明	B	
64 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.7	HD	不規	不明	B	
65 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.8	HD	不規	不明	C	
66 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	1.9	HD	不規	不明	C	
67 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.0	HD	不規	不明	C	
68 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.1	HD	不規	不明	C	
69 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.2	HD	不規	不明	C	
70 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.3	HD	不規	不明	C	
71 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.4	HD	不規	不明	C	
72 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.5	HD	不規	不明	C	
73 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.6	HD	不規	不明	C	
74 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.7	HD	不規	不明	C	
75 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.8	HD	不規	不明	C	
76 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	2.9	HD	不規	不明	C	
77 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.0	HD	不規	不明	C	
78 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.1	HD	不規	不明	C	
79 3G	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.2	HD	不規	不明	C	
80 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.3	HD	不規	不明	C	
81 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.4	HD	不規	不明	C	
82 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.5	HD	不規	不明	C	
83 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.6	HD	不規	不明	C	
84 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.7	HD	不規	不明	C	
85 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.8	HD	不規	不明	C	
86 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	3.9	HD	不規	不明	C	
87 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.0	HD	不規	不明	C	
88 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.1	HD	不規	不明	C	
89 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.2	HD	不規	不明	C	
90 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.3	HD	不規	不明	C	
91 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.4	HD	不規	不明	C	
92 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.5	HD	不規	不明	C	
93 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.6	HD	不規	不明	C	
94 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.7	HD	不規	不明	C	
95 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.8	HD	不規	不明	C	
96 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	4.9	HD	不規	不明	C	
97 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.0	HD	不規	不明	C	
98 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.1	HD	不規	不明	C	
99 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.2	HD	不規	不明	C	
100 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.3	HD	不規	不明	C	
101 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.4	HD	不規	不明	C	
102 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.5	HD	不規	不明	C	
103 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.6	HD	不規	不明	C	
104 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.7	HD	不規	不明	C	
105 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.8	HD	不規	不明	C	
106 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	5.9	HD	不規	不明	C	
107 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.0	HD	不規	不明	C	
108 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.1	HD	不規	不明	C	
109 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.2	HD	不規	不明	C	
110 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.3	HD	不規	不明	C	
111 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.4	HD	不規	不明	C	
112 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.5	HD	不規	不明	C	
113 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黑曜石	黒曜石	6.6	HD	不規	不明	C	
114 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黒曜石	黒曜石	6.7	HD	不規	不明	C	
115 3H	—	hd	剥片	黑曜石	黒曜石	黒曜石	6.8	HD	不規	不明	C	
116 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	6.9	HD	不規	不明	C	
117 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.0	HD	不規	不明	C	
118 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.1	HD	不規	不明	C	
119 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.2	HD	不規	不明	C	
120 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.3	HD	不規	不明	C	
121 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.4	HD	不規	不明	C	
122 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.5	HD	不規	不明	C	
123 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.6	HD	不規	不明	C	
124 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.7	HD	不規	不明	C	
125 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.8	HD	不規	不明	C	
126 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	7.9	HD	不規	不明	C	
127 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.0	HD	不規	不明	C	
128 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.1	HD	不規	不明	C	
129 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.2	HD	不規	不明	C	
130 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.3	HD	不規	不明	C	
131 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.4	HD	不規	不明	C	
132 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.5	HD	不規	不明	C	
133 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.6	HD	不規	不明	C	
134 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.7	HD	不規	不明	C	
135 3H	—	hd	剥片	黒曜石	黒曜石	黒曜石	8.8	HD				

剥片石器B・Cランク②

打製石斧・粗製剥片石器・礫器Bランク

石器No	F'nt' - 通番	No	部位	種類	石材	刃部加工	加工・研磨技術	基材・石器形態	ランク	備 考
117	N26	—	—	打製石斧	綠色岩	HD	HD	鏡面	B	
118	41	123	—	打製石斧	雲山岩	HD	HD	鏡面	B	
119	36	355	—	打製石斧	雲山岩	HD	HD	鏡面	B	
120	40	92	—	打製石斧	鶴見岩	HD	HD	鏡面	B	
122	30	837	—	打製石斧	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
123	30	134	—	業刃石器	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
125	30	306	—	業刃石器	鈴木九郎	HD	HD	鏡面	B	
127	36	886	—	打製・削除片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
128	36	175	—	磨平小塊	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
129	50	—	—	打製・削除片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
130	36	147	—	他製造形石器	雲山岩	HD	HD	鏡面	B	
131	36	216	—	打製・削除片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
132	36	235	—	業刃石器	鈴木九郎	HD	HD	鏡面	B	
134	36	509	—	打製・削除片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	開拓を前提とした安山岩T.
135	46	456	—	粗製形石器	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
136	36	356	—	裏刃石器	白羽岩	HD	HD	鏡面	B	
137	46	100	—	裏刃石器	鈴木九郎	HD	HD	鏡面	B	
139	46	—	—	兩片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
140	46	523	—	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
141	46	626	—	兩片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
142	46	278	—	兩片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
143	46	322	—	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
144	46	323	—	打製・削除片	安山岩	HD	HD	鏡面	B	
149	36	425	—	磨削片	黃青	HD	HD	鏡面	B	
150	36	204	—	磨削片	鈴木九郎	HD	HD	鏡面	B	

礫石器B・Cランク

石器No	F'nt' - 通番	No	部位	種類	石材	加工・研磨技術	尖部・石器形態	ランク	備 考
191	3F	376	Ic	扁平錐	砂岩	なし	粗面	B	
209	4G	455	Ic	成形?	砂岩	なし	粗面	B	平行斜面、兩面に堆積
210	1位	13	記載なし	丸石・石棒?	花崗岩	粗面	痕	B	依然、削片獲得、表面あり
215	40	58	Ia	石棒	鶴見岩	敲打・研磨	不明	B	体部断片、依然、底部面に凹面あり
216	4F	15	Ia	石棒	安山岩	敲打・研磨	不明	B	体部断片、依然
223	40	451	Ic	石棒	安山岩	敲打	不明	B	断片剥離、細あり
218	1位	40	記載なし	鉋石	安山岩	なし	粗面	C	表面剥離
222	40	163	Ic	石棒	安山岩	敲打	不明	C	断片剥離、わずかに堆積確認
224	40	249	Ia	石棒	安山岩	なし	不明	C	断片剥離、堆積あり
225	30	518	Ia	石棒	はんれい岩	なし	粗面	C	断片剥離、堆積あり
226	MZ10	6	記載なし	石板岩骨片	安山岩	なし	粗面	C	一部破損、石頭の骨材になる可能性あり。

棒 状 碓

石器No	F'nt' - 通番	No	部位	種類	石材	大きさ (mm)	重量 (g)	ランク	備 考
30	3G	482	2c	棒状器	砂岩	67.7	34.1	B	
31	4G	566	2d	棒状器	碧玉	62.3	20.7	32	B
32	4H	85	2c	棒状器	砂岩	34.1	22	45.9	B
33	3G	116	2c	棒状器	砂岩	72.6	26.6	41.7	B
34	4G	615	2c	棒状器	砂岩	62.3	25.8	43.5	B
35	3G	732	2d	棒状器	砂岩	69	30	45.5	B
36	4G	647	—	棒状器	砂岩	62.6	26.1	55.6	B
37	4G	574	2c	棒状器	砂岩	50.1	26.3	43.8	B
38	3F	44	—	棒状器	砂岩	59.2	17.2	22.5	B
39	3F	368	2c	棒状器	砂岩	59.2	24.7	43.5	B
40	3F	407	2c	棒状器	砂岩	58.7	29.2	45.2	B
91	1位	38	—	棒状器	砂岩	68.2	22.6	30.5	B
92	3G	898	2d	棒状器	砂岩	77.7	36.7	114.1	B
93	4H	156	2c	棒状器	砂岩	62.2	38.2	76.9	B
94	4G	525	2c	棒状器	砂岩	60.7	30.1	76.8	B
95	4H	133	2c	棒状器	砂岩	65.7	30.2	84.3	B
96	4G	633	2c	棒状器	安山岩	67.5	38.1	106.4	B
97	4G	141	2c	棒状器	砂岩	88.9	46	188.4	B
98	4G	482	2c	棒状器	砂岩	95.7	31.6	132.3	B
99	3K	101	2c	棒状器	砂岩	93.9	37.8	98.3	B
100	1位	64	—	棒状器	砂岩	114.1	32.3	189.3	B
101	1位	53	—	棒状器	砂岩	107.1	35.3	153.5	B
102	3G	184	2c	棒状器	砂岩	94.1	37.3	147.1	B
103	3G	573	2d	棒状器	砂岩	95	44.1	150	B
104	3H	155	2c	棒状器	砂岩	92.3	31.8	153.9	B
105	3H	171	2c	棒状器	砂岩	85.9	41.3	147.4	B
106	3G	582	2d	棒状器	砂岩	85.9	42.7	103.6	B
107	3H	101	2c	棒状器	燧石	127.9	60.2	453.6	B
108	3G	9	2c	燧石	瓦岩	104.4	56.1	633.7	B
109	1位	73	—	燧石	砂岩	131.2	60.3	560.4	B



1号竪穴住居跡（北から）



1号竪穴住居跡完掘状況（南から）



1号竪穴住居跡炉跡（南西から）



JU-SKセクション（南から）



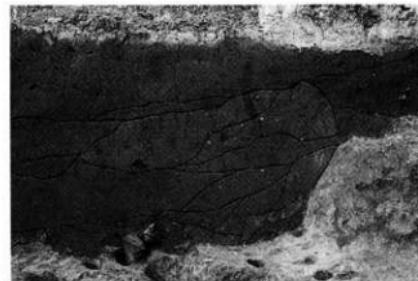
1号竪穴住居跡配石①



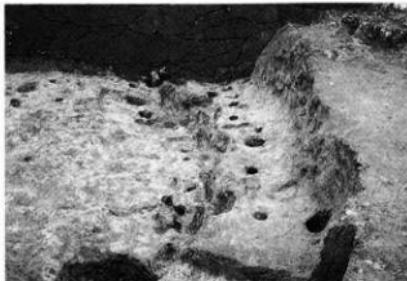
1号竪穴住居跡配石②



1号竪穴住居跡セクション



1号竪穴住居跡セクション（アップ）



1号竪穴住居跡棚状遺構完掘状況



1土-3



1住-1



1土-5



1住-3



DG-6



DG-5



DG-1



DG-1

報告書抄録

ふりがな 書名	しゅくじりいせき 宿尻遺跡						
副書名	デイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
編著者名	岡間俊明、角強淳一（株式会社アルカ）、パリノ・サーヴェイ株式会社						
編集機関	越崎市教育委員会・越崎市遺跡調査会						
発行機関	越崎市教育委員会・越崎市遺跡調査会						
住所	〒407-8501 山梨県越崎市水神1丁目3番1						
発行年月日	2002(平成14)年3月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しゅくじりいせき にらさきしあなやま ちようあぎしゅくじ り	19207 越崎市六山 町・宿尻	S-	35°45'00"	138°25'15"	2000年07月11 日～ 2001年09月03 日	240m ²	デイサービスセ ンター建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宿尻遺跡	集落跡	绳文時代	竪穴住居跡 壁面施設	绳文土器 石器 土偶 植物遺存体 骨 他	植物遺存体分析 骨 鑑定		
	耕地	古墳時代		土師器 石器 他			
	近世以降	溝 ピット	陶磁器 他				

宿尻遺跡 ～デイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

平成14年3月20日 印刷

平成14年3月29日 発行

発行 越崎市教育委員会・越崎市遺跡調査会

〒407-8501

山梨県越崎市水神1-3-1

TEL 0551-22-1111 (内224)

印刷所 ほおづき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5

